

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

**平成26年度～平成30年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 明治大学 2 大学名 明治大学
- 3 研究組織名 日本古代学研究所
- 4 プロジェクト所在地 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台キャンパス
- 5 研究プロジェクト名 日本古代学研究の世界的拠点形成
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
石川 日出志	文学部	教授

- 8 プロジェクト参加研究者数
- 13
- 名

- 9 該当審査区分
- 理工・情報
- 生物・医歯
- 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
石川 日出志	明治大学文学部・教授	日本列島初期農耕社会の地域性 杉原荘介資料の文化資源化	弥生時代の物資・技術・集団
加藤 友康	明治大学大学院・特任教授	平安時代貴族社会と日記 儀式書史料の文化資源化	平安時代の儀礼・都市
吉村 武彦	明治大学文学部・教授	奈良時代の文字使用と律令法 令集解・墨書土器のデータベース化	統治構造と律令法の研究
佐々木 憲一	明治大学文学部・教授	古墳時代の中央と周縁 日本古代学研究の国際化	都市・国家と地方支配
牧野 淳司	明治大学文学部・教授	東アジアから見た日本の物語と説話 除秘鈔紙背文書の文化資源化	物語・説話を通じた心性の研究
井上 和人	明治大学大学院・特任教授	中華帝国周縁国家の古代都城の展開過程— 出土建築素材論を視野に入れて—	古代都城と出土資料論
神野志 隆光	明治大学大学院・特任教授	漢字世界としての古代 日本列島における 文芸 —神話・歴史・歌の発見—	古代文芸の生成と変容
山崎 健司	明治大学文学部・教授	文学作品の文字使用と表現 萬葉集諸本本文の文化資源化	古代文芸の生成と心性の解明
湯浅幸代	明治大学文学部・准教授	王朝物語の構成要素 源氏物語の注釈・講義録の文化資源化	物語と儀礼・心性
居駒 永幸	明治大学経営学部・教授	日本古代文学と琉球文学の発生 琉球地方旧記類と口承神歌の資料保存	口頭伝承と心性
中村 大介	埼玉大学教養学部・准教授	ユーラシアにおける交易網の復元と技術 移転 金属器及び玉類の分析と文化資源化	東アジアにおける物資と技術の移動
川尻 秋生	早稲田大学文学学術院・教授	平安時代仏教の研究 僧伝史料の文化資源化	文芸資料と平安時代論
山路 直充	市川市立市川考古博物館・学芸員	品への記銘からみた生産と負担 記銘製品としての文字瓦の文化資源化	古代の瓦生産と文字

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

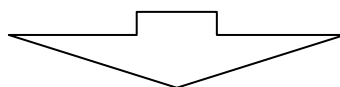
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
奈良時代の文字使用と律令法令集解・墨書土器のデータベース化	明治大学文学部・教授	吉村 武彦	統治構造と律令法の研究

(変更の時期:平成29年3月31日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
明治大学文学部・教授	明治大学・名誉教授	吉村 武彦	統治構造と律令法の研究

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
漢字世界としての古代 日本列島における文芸 —神話・歴史・歌の発見—	明治大学大学院・特任教授	神野志 隆光	古代文芸の生成と変容

(変更の時期:平成28年3月31日)

➡ 退職

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
中華帝国周縁国家の古代都城の展開過程—出土建築素材論を視野に入れて—	明治大学大学院・特任教授	井上 和人	古代都城と出土資料論

(変更の時期:平成29年3月31日)

➡ 退職

11 研究の概要

(1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【研究目的・意義】

本研究の目的は、明治大学が10年来継続してきた学際的・国際的視野に立つ日本古代学研究に立脚し、本学所蔵の研究資料群(杉原荘介・岡正雄・井上光貞コレクションなど)を活用するとともに、新たな世界的研究拠点を構築することにある。これまでの蓄積に基づくとともに、新たに民族学・法制史学研究も踏まえて拡充を図る。上記の研究資料群を文化資源化するとともに、すでに公開中の出土文字データベースをさらに充実させてデジタル公開し、「もの」(物資・技術・経済)、「こと」(文字・律令・制度・都市)、「ところ」(文芸・心性)の3つの側面から日本古代学の国際的構築をめざす。文化資源としてのデータベースの構築と、それを基盤とする研究を蓄積することによって、日本古代学研究の世界的研究拠点に育てる。

【計画の概要】

研究目的を実現するために、日本古代学研究所(明治大学国際日本古代学研究所)を核として、明治大学専任教員および外部研究機関の研究者により、(1)「もの」(物資・技術・経済)の研究、(2)「こと」(文字・律令・制度・都市)の研究、(3)「ところ」(文芸・心性)の研究、

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

の3つの研究部門（テーマ1～3）を構成する。3部門協同で、日本古代学研究資料群の文化資源化（研究基礎資料群の収集・整理・保存および活用のためのデータベース化）を推進し、世界に発信する。そのために、3テーマの学内専任メンバーとPD・RAからなる文化資源化チームを組織する。各テーマには複数の具体的研究課題を設けて分析・検討を進める。

また、各部門で、国内外の資料群調査、およびその比較文化的研究を推進し、国際研究集会等各種の研究集会開催をとおして総合化を図る。これまで連携実績のある学外及びアジア・欧米の研究機関・研究者とも連携を重ねて、日本古代学研究の世界的拠点形成を図る。

研究活動については日本古代学研究所ホームページ(<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/>)を用いて逐次情報公開する。

【変更点】

韓国・中国・ベトナムなどアジアの古代学資料群にも目を向け、それらとの比較研究を通して日本古代学の特徴を析出する計画であった。韓国・中国の出土資料群、韓国の文学関係資料の分析・研究は計画通り実施したものの、ベトナムの文学関係資料については、漢喃研究院図書館における目録類調査など予備的なものにとどまった。

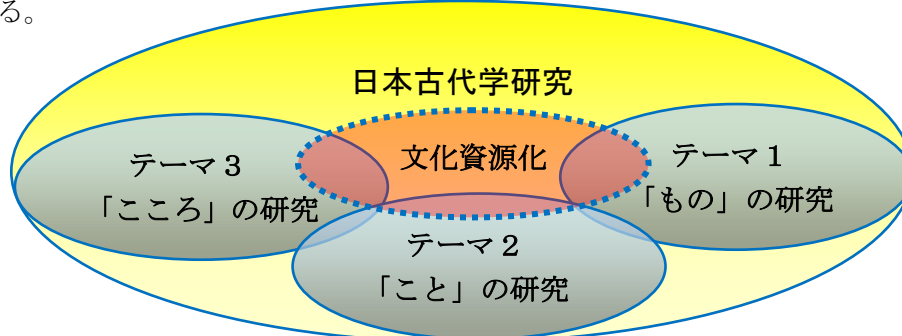
(2) 研究組織

【研究代表者の役割】

- 研究代表者の石川日出志は、テーマ1・2・3の各テーマリーダー（石川・吉村武彦・牧野淳司）およびこれらを横断するデータベースシステム構築リーダー（加藤友康）と恒常的に協議し、基本的に全構成員が出席する運営委員会をとおして、研究プロジェクトを統括する。
- 研究代表者を補佐するため、プロジェクトマネージャー（吉村）を配置する。

【各研究者の役割分担や責任体制の明確さ】

- 構成員を3つの研究部門に配置し、それぞれテーマリーダー（○印）を置いて統括を行う。また、研究の横断・総合化を図るために、数名は複数のテーマを担当する。その構成は次の通り。
 - テーマ1： ○石川日出志、佐々木憲一、吉村武彦、加藤友康、中村大介、山路直充
 - テーマ2： ○吉村武彦、加藤友康、佐々木憲一、井上和人、山路直充、川尻秋生
 - テーマ3： ○牧野淳司、神野志隆光、山崎健司、湯浅幸代、居駒永幸、川尻秋生
- 3テーマを横断する文化資源化（データベース）システム構築： ○加藤友康、石川日出志（テーマ1）、吉村武彦（テーマ2）、牧野淳司（テーマ3）
- 研究組織の構造を模式図で示す。3つのテーマがそれぞれ活動しつつ共同で日本古代学研究を展開する。そして3テーマがそれぞれの資料を文化資源化する活動を通してもう一つの連携の仕組みが機能する。



【研究プロジェクトに参加する研究者の人数】

- 構成員は、学内者10名、学外者2名で組織した。また、前掲構成員のほか、下記の研究協力者各氏の支援を得てプロジェクトを遂行した。

テーマ1：岡正雄資料研究； Josef Kreiner（ドイツ・ボン大学・名誉教授）、山田仁史（東北大学大学院文学研究科・教授）、嶋内博愛（武蔵大学人文学部・教授）、山田香織（香川大学、2018年度追手門学院大学基盤教育機構・常勤講師）

テーマ2：蛍光X線分析； 藁科哲男（遺物材料研究所会長／元京都大学原子炉実験所助手）、田村朋美（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室・研究員）、高野陽子（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

テーマ2：出土文字資料データベース構築； 市大樹（大阪大学文学研究科准教授），柴田博子（宮崎産業経営大学法学部教授），荒木志伸（山形大学学士課程基盤教育機構准教授）

テーマ3：源氏物語研究； 日向一雅（明治大学名誉教授）

・デジタル化については外部専門業者（ナカシャクリエティブ社）の支援を受けた。

【大学院生・PD及びRAの人数・活用状況】

・2014年度： 研究支援者1名，大学院生（前期課程・後期課程）アルバイト5名・その他アルバイト1名

・2015年度： 研究推進員（PD）1名，研究支援者2名，大学院生（前期課程・後期課程）アルバイト8名・その他アルバイト1名

・2016年度： RA3名，研究支援者1名，大学院生（前期課程・後期課程）アルバイト12名・その他アルバイト1名

・2017年度： PD1名，RA3名，研究支援者1名，大学院生（前期課程・後期課程）アルバイト7名・その他アルバイト1名

・2018年度： PD1名，研究推進員1名，RA4名，研究支援者1名，大学院生（前期課程・後期課程）アルバイト6名・その他アルバイト1名

【研究チーム間の連携状況】

1. 3つのテーマがそれぞれ日本古代学研究資料群の文化資源化の研究活動に従事するために，3テーマの学内専任メンバーとPD・RAからなる文化資源化プロジェクトチームを組織する。これが，3テーマが常時連携する重要な役割を果たした。

2. そして，全体の研究推進を図るために，定例運営会議を年3回開催することしたが，2016年度5回，2017年度からは8～9回開催に変更して連携強化に努めた。また，各プロジェクトはグローバルフロント408B・C・D・Kの連続する研究室で並行して研究遂行しており，相互の情報は日常的に共有・交換できる環境にある。

【研究支援体制】

1. 大学としての組織的支援体制： 明治大学研究・知財戦略機構のもとに，「国際日本古代学研究」クラスターとして位置づけで組織的に研究支援を行う体制で研究を展開した。

2. 大学研究・知財戦略機構の承認のもとに研究推進員・研究支援員を配置し，さらに学部生・院生・PD及びRAおよび大学院修了相当の研究能力のあるアルバイトによる支援体制を整えた。

【共同研究機関等との連携状況】

1. 共同研究機関との組織的連携の文書契約は行っていない。しかし，蛍光線X線分析では，国内では東京大学・岡山大学考古学研究室，奈良県桜井市埋蔵文化財センター，京都府京丹後市教育委員会など，海外ではベトナム歴史博物館・モンゴル科学アカデミー，墨書土器を主とする出土文字史料データベース作成では全国の自治体の埋蔵文化財調査組織との連携・協力を得て，分析やデータ収集を行った。

2. これまで10年来連携実績のある学外及びアジア・欧米の研究機関・研究者とも連携して，日本古代学研究の世界的拠点形成を進めた。連携研究として重点化する海外の機関としては，大韓民国の高麗大学校，中華人民共和国の中国社会科学院，南京大学歴史系，アメリカ合衆国の南カリフォルニア大学史学科であり，さらにアジア・欧米各地の優れた研究機関・研究者との連携を重ねた。現在は，ベトナムの国家大学ハノイ大学人文学部歴史系や大韓民国の忠南大学校百済研究所との人的交流を開始している。組織的な学術交流に発展することも間近い。

3. 地域研究では，熊本県教育委員会・装飾古墳館との連携で鞠智城関係の共同研究をほぼ毎年実施し，古代における白村江の敗戦以降の列島情勢について研究を深めた。また，奈良県明日香村教育委員会との連携で，古代飛鳥の研究を発展させることができた。研究成果を明治大学で発表することによって，当該地域だけではなく，東京において鞠智城や飛鳥研究の重要性を発信することができた。市川市とは契約はないが，メンバーの多くが『市川市史』歴史編の編纂に協力しており，実質的には考古博物館と連携して研究している。

(3) 研究施設・設備等

1. 研究施設の面積及び使用者数

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- ・研究施設とその面積： 日本古代学研究所：明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント 8階（408B・C・D・K研究室／隣接および対面配置）、計150㎡
- ・使用者数： 本研究を構成する研究者12名中10名の学内者が恒常的に使用し、さらに10名内外の大学院生・PD及びRAがこの4室で研究支援を行った。

2. 主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数 等

(1) サーバー一式 (Express5800/T102d(6C/E5-2430)・入力PC5台)

2014年度に設置したサーバー上に、2014年度にデジタル撮影を行なった岡正雄・井上光貞関係資料のデジタルデータ（それぞれ2281コマ、2716コマ）を搭載し、その管理データの作成作業を進めた。以後、2015年度には杉原荘介資料のデジタルデータ（5,755コマ）のサーバーへの搭載を開始し、最終年度までに杉原荘介資料5755コマ、岡正雄資料6,986コマ、井上光貞資料10,281コマ、古典籍画像データ610コマ、総計23632コマのデジタルデータをサーバー上に搭載した。2015年度以降、古代学検索データベースシステムについて、画像データ取得済み分から順次検索項目の検討・設定を行い、検索用メタデータの入力作業を推進して、最終年度にシステム構築を完了した。この間、週2日×12時間×44週、岡・井上・杉原資料各2名計6名を基本として作業を進め、各年度ともサーバー及び入力用PCは毎日稼働する体制をとった。

(2) エネルギー分散型蛍光X線分析装置 (OURSTEX 100FA)

考古資料は出土した国・地域から移動することが困難なことから、ポータブル型蛍光X線分析装置を用いて国内外の資料所蔵機関で分析することが必要である。2014年度に設置し、機器の調整を重ねた上で、2015年度から本格的に資料測定を開始した。中村大介が担当し、日本で最も分析蓄積のある藁科哲男・田村朋美両氏の研究協力を得て分析を進めた。4か年で国内では明治大学博物館、東京大学・岡山大学考古学研究室、奈良県桜井市埋蔵文化財センター、京都府京丹後市教育委員会など、海外ではベトナム歴史博物館・モンゴルで科学アカデミー、日本の弥生時代および併行期の遺跡出土緑色凝灰岩製玉類とガラス製品の測定を行った。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

【日本古代学研究の世界的拠点形成】

明治大学所蔵研究資料群の文化資源化、明治大学所蔵研究資料群に関する研究実践、海外の研究組織・研究者との研究交流の恒常化、の3点に重点を置いた研究活動によって<日本古代学研究の世界的拠点形成>に努めた。そして毎年度、国際学術研究会<交響する古代>（V～IX）を開催してその総合化を図った（76・77・81・85・87）。明治大学日本古代学研究HP（<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/>）参照。

【テーマ1～3横断】 本学所蔵の研究資料群の文化資源化

1. 学際的・国際的視野に立つ日本古代学研究の拠点形成を目的に、本学所蔵古代学関係資料群（杉原荘介・岡正雄・井上光貞資料）の文化資源化を進めるため、杉原関係資料5,755、岡関係資料6,986コマ、井上関係資料10,281コマからなるデジタルデータを生成しサーバー上に搭載し、これとリンクする検索用データを作成し、古代学検索データベースシステムを構築した。そのプロセスと意義についても研究報告した（*51・52）。【達成度100%】

2. 古代学研究所が保管する古典籍についてデジタル撮影も行い、古代学検索データベースシステム上に古典籍デジタル画像資料を加え、『花鳥芳囀』61コマ、『源氏物語聞録』483コマ、『うなみ松』22コマ、『文殊の本地(梵天国)』44コマの画像資料を、このシステム上から閲覧可能とした。【達成度90%】

【テーマ1】 「もの」(物資・技術・経済)の研究

1. <東アジア考古遺物の蛍光X線分析・交易圏解析>については、日本・モンゴル・ベトナム各地で分析を行い、日本列島の弥生時代におけるガラス製品の原料がインド・東南アジアに由来することを確認した。しかし、ベトナムでは南アジア一帯と関連する多彩なガラス製品の組成をもっており、直結しないことも判明した。一方、モンゴルの資料分析によって、朝鮮半島から北方草原地帯を経て中央アジア以西にまで広がる物流の実態が把握できた。（*6・57～60・88）【達成度100%】

2. <「漢委奴國王」金印関連資料の検討>については、従来モノ資料としての検討が十分でなかったことから形態情報の詳細な分析を行った。「「漢委奴國王」字形は細部まで後漢前期の特徴をよく示しており、四半世紀あまり遡る王莽代の封泥の文字と比較しても、わずかに新しい特徴が見出せる。従来まったく見過ごされてきた鈕孔も後漢代の特徴をもつと断定できた（*1～5）。ま

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

た、真贋論争もあることから、公開で両者議論を交わす場を設けて、公正を期した（*80）。【達成度 100%】

3. <杉原荘介資料>については、明治大学博物館所蔵杉原資料の目録作成を終了し、デジタル公開する条件を整えた。杉原が果たした日本考古学界の組織化および、アジアと欧米との研究連携（国際化）についてもその体系化を果たした（*53～56・75・84）。特に2018年5月開催の日本考古学協会創設70周年記念第84回総会で、石川が杉原資料に基づいて同学会設立に関する詳細を記念講演した（*56）。【達成度 90%】
4. <岡正雄資料>については、目録作成・写真撮影を終了し、デジタル公開する条件を整えた。2015年度に国際シンポジウムを開催し（*78）、同年度内に英文報告書（*43）を発行し、2016年度には欧州の研究者による学術誌レビュー（Antweiler, Christoph 2018 *Antropos* 113, pp. 316-318）が実現した。また、岡の学位論文の邦訳についても2018年度内に完了した。【達成度 90%】
5. <日本古代学の国際化手法の検討>においては、特に古墳時代・古代（国家形成期）を対象として、日本古代史を世界史になかに位置づける研究を実践した（*8～10・44・61～67）。そのため、北アメリカとヨーロッパ中部の墳丘墓の現地調査を行って、日本の古墳との比較検討を行い、その特異性を認識した。また、古墳・古代寺院研究に関する講演やワークショップをアメリカ合衆国・イギリス・ドイツで重ね、相互の研究手法をめぐる議論の活性化に努めた（*63～67）。さらに、明治期のお雇い外国人・W. ガウランドが収集した考古資料・調査データ（大英博物館所蔵）の資源化を行った。杉原資料の検討と関連して、杉原荘介が戦後早い段階で欧米の考古学・人類学者との交流を行ったことから、USAで資料調査を行い、交流の実態を確認した（*11・68）。【達成度 80%】

【テーマ2】「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究

1. 1次史料の研究のうち<文字瓦>については、データ量が多い武蔵国分寺関係の国分寺瓦を明確にするため、島根県が保管する平塚瓦コレクションにおける武蔵国関係の国分寺瓦の悉皆調査を実施した。その結果は、『古代学研究所紀要』25に報告（*13）し、現在最終報告を準備中である。島根県分の武蔵国分寺瓦の特徴が明らかになったので、武蔵国分寺の文字瓦の全貌を解析する手立てができた。なお、下総国分寺については、『市川市史』歴史編Ⅲ（*46）の第3章第2節3「国華、七重塔」において、研究成果の一部を取り入れることができた。【達成度 90%】
2. 明治大学所蔵「除秘鈔」については、特別協力者である田島公東大史料編纂所教授の積読文があるので、「除秘鈔附の積読作業を研究会方式で行い、成り立ちの研究を継続しながら、現在ほぼ全文の積読が終わった。現在は、2020年度に八木書店から積読文を含め、解説・研究の成果を刊行すべく準備中である。【達成度 90%】
3. 好太王碑（広開土王）の初期石灰拓本（剪装本・全紙本）の積読、解題・解説、研究については、明治大学広開土王碑拓本刊行委員会を組織し、『明治大学図書館蔵高句麗広開土王碑拓本』（八木書店、2019年3月）として刊行した（*47）。第一部「史料編」が[第1章]整紙本（写真版）、[第2章]剪装本（写真版）、[第3章]校訂本文、第二部「論考編」とからなり、吉村武彦と加藤友康が委員として刊行に尽くした。【達成度 100%】
4. 井上光貞『令集解』関係資料群については、文化資源の項で記したように、ホームページにおいて「令集解研究」と「その他資料」として公開の準備を進め、その重要性も喚起した（*83）。現在、「解説」を準備中であり、2019年度中には公開予定である。「東山文庫本令集解」の公開は、公開申請書を提出して折衝中である。井上資料群と関係する「日本古代官制関係研究文献目録」は稿本をホームページで公開済みである。【達成度 90%】
5. 墨書土器データベースについては、科学研究費補助金基盤研究（A）とも分担しつつ、拡充に努めている（古代学研究所HP）。全国墨書土器・刻書土器横断検索データベースのオンライン版（試行版）としては、すでに実績を評価されており、今後も継続的に補充していきたい。文字瓦データベースについては、平塚瓦コレクションの調査に重点がかかり、当面はこのデータベースを公開できるように努めたい。【達成度 100%】
6. 総括的研究としては、文字使用の問題がある。加藤友康「文字による支配」（『市川市史』歴史編Ⅲ（*46）において地域における文字使用と情報伝達という面の研究を説明した。また、吉村武彦「出土木簡の『歌詞』と『日本書紀』歌謡」は、音仮名の木簡を手がかりとして、『古事記』『書紀』の素材となった「帝紀」「旧辞」研究の再構築を企図したものである（*69）。また、国家の形成過程の古墳時代におけるヤマト王権については、吉村武彦「歴史学から見た古墳時代」（『前

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

方後円墳』岩波書店、2019年5月刊行予定)において、研究成果の一部を提示した(*12)。また、国家成立と密接な関係がある大化改新については、吉村武彦『大化改新を考える』において、研究の現状を示すとともに、今日段階の研究成果を叙述した(*45)。【達成度 90%】

【テーマ3】「こころ」(文芸・心性)の研究

この部門では、〔1〕歌・物語などの文芸テキストを用いて古代の心性世界を探究することを中心に研究を進めた。その際、〔2〕明治大学所蔵資料のいくつかについて基礎的研究を進めてデータベース化し、古代心性研究に活用することを目指した。また、〔3〕韓国・中国・ベトナムなど東アジア漢文文化圏における文芸テキストを視野に入れて、日本古代の心性を比較文化論的立場から考察することを試みた。以上3つの柱のうち中心となるのは〔1〕であるが、この主要な内容は以下の5つとなっている。①『万葉集』を用いた古代心性研究、②『古事記』の歌と散文および宮古島に伝わる旧記類と口承神歌から古代心性を探る研究、③『源氏物語』を中心とする平安朝物語文学を用いた心性研究、④『平家物語』と仏事儀礼テキストを用いた心性研究、⑤時代・ジャンルを越えた古代心性研究の可能性の探求で、①～④はプロジェクト・メンバーが個々に研究を進め、それぞれの研究を突き合わせ止揚することを目指して、共同で⑤の研究を行った。以下、〔1〕の①～⑤、および〔2〕〔3〕について、その成果を略述する。【達成度 90%】

〔1〕-①については、『万葉集』仙覚本系統諸本(主に寛元本・文永三年本・文永十年本の3段階の諸本)の比較を可能とする「萬葉集仙覚本データベース」を整備する作業を行い、これを完成させた(*22)。また、本文の基礎データを整備する作業と並行して『万葉集』のテキスト分析を通して心性を探る研究を進めた(*18)。具体的には、『万葉集』における類型的表現を精緻に読解することで古代の人々が持つ心性を明らかにできることを示し(*17)、類型を通して作品が生まれる場の実態を解明する試みを、天平二年正月に大宰府で大伴旅人が開催した「梅花の宴」について行った(*19)。また、大伴家持の絶唱とも評される巻十九巻末の春愁歌の表現や歌ことばの持つ意味を追究した(*20・21)。さらに、『万葉集』を中心に上代における漢字の使用について、「咲」の字を譬喩的に使用する例を取り上げて論じた(*49)。

〔1〕-②については、『古事記』の歌・散文と宮古島の神歌との間を往還しながら研究を実施した。古事記について、「古事記神話の歌と散文」というテーマで、その表現空間を解読し注釈する作業を実施した。『古事記』中巻の神武から応神では、皇位継承の争いに歌が集中することに注目し、従来言われている歌の会話性という機能を見直し、歌がもつ現実性・事実性を指摘した。下巻については、仁徳記の歌と散文について14首の歌に注釈を加えた。そこでは恋の歌のうたい交わしが多くなる点に注目し、歌と散文の文体が人間的な天皇像を確立するために機能することを示した(以上のテキスト注釈作業の成果は居駒論文(*30~38))。宮古島の神歌の分野では、宮古島市狩俣集落において神歌の調査研究を実施してきた。主たる作業は神歌資料の収集のほか、祭祀と神歌の構造や神歌表現の分析である。継続的聞き取り調査により、夏穂祭りのタービ(祖先の神々を顕彰する神歌)と祖神祭のフサ(神や祖先の事績をうたう神歌)が構造的な関係をもつことなどがわかってきた。また、歌の原初の段階に神々が自ら一人称でうたう叙事歌の存在が想定されることを指摘した。これは神の自叙に文学発生を認める折口信夫の学説を補強する具体的事例として注目される。その他、「宮古島の神と森を考える会」において、宮古島市の祭祀と神歌を復活させる活動を行ってきた。毎年11月にシンポジウムと神歌の実演を行い、近年は参加者が次第に増え、60名を超えるようになった(*39~42・48)。

〔1〕-③については、『源氏物語』「蜚巻」に記される物語論を通して、物語と古代社会との関係性について考察した(*23)。源氏物語の立后と皇位継承のあり方について、史実を視野に入れて考察した。その結果、史上における立后と皇位継承との密接な関係が物語にも投影されていることを指摘した(*25)。同様に、『うつほ物語』が史上の事件を投影させつつ、物語独自の立坊争いを描くことも明らかにした(*26)。源氏物語の古注釈書『花鳥芳囀』について、全文の翻刻を発表し(*24)、その注釈方針・内容等を検討し結果を報告した(*28)。本書の写本は、岡山大学附属図書館(池田家文庫)のみが知られるが、調査を実施し比較検討した(*29)。平安時代の心性を示す重要な言葉である「心の鬼」について、先行研究では「自らの心を見つめる語」と指摘されるが、『源氏物語』を中心に詳細な分析を行った(*27)。

〔1〕-④については、表白など仏事儀礼テキストを読解することで、儀礼の場で生み出された心性が『平家物語』に大きな影響を与えていることを明らかにした(*17)。また、「源氏物語表白」の注釈的研究を進め、『源氏物語』が法事の営みを介して仏法へ結縁する場面を描く物語としての側面を持つことを示した。さらに仏事法会研究の立場から『源氏物語』を分析した。『源氏物

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

語』に描かれる仏事場面の分析から、仏教で本来否定されるはずの親子や夫婦の情愛が肯定され、現世での縁を媒介として来世での救済を求める心性が存在することを明らかにした(*15)。このような「結縁」の心性を僧侶は積極的に唱導していたこと、和歌や物語における「御法」という言葉は「結縁」の心性をよく表すことを示した。『平家物語』について、平安時代・鎌倉時代の仏事法会場で展開した言説が物語に強く影響を与えていることを明らかにした。後白河法皇をめぐる唱導が『平家物語』という物語を生み出す契機となり、そこに死者の霊に対する古代的心性がうかがえることを示した(*16)。

〔1〕-⑤については、古代の「ころ」(心性)を追究する際の、着眼点と方法、想定される問題点について、時代とジャンルを越えて議論するために研究集会の場を設け(*86)、この分野について示唆的な研究業績を出している研究者(上野誠・荒木浩)を外から招聘して、個別報告と討論を行った。古代心性研究の課題と方法を示すものとなった(古代学研究所紀要 27号: *16・21・27)。

〔2〕については、研究所で購入した逸名の巻物の解読作業を進めた。読解の結果、本書は木下長嘯子「うなみ松」であることが判明した。娘の死を受け止めるための文章が『源氏物語』を踏まえて書かれており、物語が人間の感じ方を左右する力を持つことが分かった。『源氏物語』の注釈書『花鳥芳囀』について、業者(ナカシャクリエイティブ)と幾度か打ち合わせをし、画面構成の提案、書誌データ等を作成した。『源氏物語』の講義録である『源氏物語聞録』(江戸時代)全九冊についても、翻刻修正作業を行った上でテキストデータと合わせて撮影データを作成、それらをデータベースとして公開した。古代学研究所蔵「うなみ松」(紙背「源氏物語表白」)、「梵天国」についても、業者と打ち合わせた上で画像データを作成し、データベースとして公開した。明治大学図書館蔵『除秘抄 付』(仮題)については、解読と釈文作成、および文献学的研究と関連資料の調査を進め、解読作業をほぼ終えた。2019年度中に翻刻見直し作業と解題執筆を進め、2020年度に書籍として刊行する予定である。

〔3〕については、ベトナムにおける古代関係諸資料の予備的調査を行った(2016年8月)。また、日本における古代の「ころ」の性質を東アジアという視座から比較研究するために、韓国漢文小説の研究を進めた(*82)。いくつかの作品について、訓読文と訳文を作成した。2017年度には、研究集会を開いて成果を世に問うとともに(成果は、古代学研究所紀要 26号)、韓国の財団から翻訳出版助成金を得て、2019年度の出版を予定している。

<優れた成果が上がった点>

【日本古代学研究所の世界的拠点形成】

明治大学所蔵研究資料群の文化資源化、明治大学所蔵研究資料群に関する研究実践、海外の研究組織・研究者との研究交流の恒常化による<日本古代学研究所の世界的拠点形成>はおおむね計画通りの成果を上げることができた。

【テーマ1～3横断】本学所蔵の研究資料群の文化資源化

古代学検索データベースシステムを古代学研究所のHPから一般公開し、日本古代学研究所の共通の基板を形成することができた。これと並行して、この研究資源を対象として、2015年度には国際シンポジウム『Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship』(岡正雄の人類学的学問の形成過程)(*43・78)、2017年度には、井上光貞生誕100周年記念シンポジウム「日本の律令と令集解研究」(*83)、公開シンポジウム「戦後日本考古学と杉原荘介」(*84)などを開催し、杉原荘介・岡正雄・井上光貞3名の学問形成過程をはじめ、学術的評価の検討も進めた。

また、文化資源化の進展状況について、2017年度開催の国際学術研究会『交響する古代Ⅷ』<古代文化資源の国際化とその意義 vol.3>で「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(新大型研究)における統合型検索システムの開発と文化資源化(*51)」、2018年度開催の国際学術研究会『交響する古代Ⅸ』<古代文化資源の国際化とその意義 vol.4>「文化資源の研究資源化と統合型検索システムの開発(*52)」の報告を行ない、システム開発の現状と課題を確認した。

【テーマ1】「もの」(物資・技術・経済)の研究

1. 東アジア考古資料の蛍光X線分析で、西暦紀元前後のアジアにおける雄大な物流の実態が見えてきた。日本列島弥生時代のガラス製品の原料が東南アジアに由来するが直結はせず、中国南部を考慮する重要性が認識された。一方、モンゴルの資料分析によって、朝鮮半島から北方草原地帯を経て中央アジア以西にまで広がる物流の実態が把握できたことは、大きな成果である。研究

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

成果は、2018年度に国際シンポジウムを開催（*88）して相互評価した。

2. 「漢委奴國王」金印研究は従来考古学的な検討が不十分であったが、鈕の形態や印面文字細部の特徴の検討によって後漢初期の特徴をもつと断定できた。この金印については、近年江戸時代贋作説があるが、それが全く成立しえないことを証明した。
3. 杉原荘介資料の検討から、従来不詳であった戦後日本考古学界の組織化の過程が明確になった。それは現在の考古学界の組織・運営の基礎となっていることも注目される。また、日本の考古学者による海外交流の先駆者として杉原を再評価すべきことも可能となった。
4. 岡正雄資料の検討と国際シンポジウムの開催によって、岡正雄が日本民族学の形成と幅広い国際学術交流に果たした役割を再評価すべきことが明らかとなった。

【テーマ2】「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究

1. 大学所蔵の広開土王碑拓本（剪装本・全紙本）について、『明治大学図書館蔵高句麗広開土王碑拓本』の刊行は、明治大学所蔵の文化資源を広く学界に提供することに第一の意味がある。しかし、それに留まらず、広開土王碑は4世紀末の日本列島における倭国をめぐる高句麗・百濟・新羅との外交関係を記す一級資料である。これまで、重要な史料であるにもかかわらず、原石拓本と初期石灰拓本とを写真で比較することが難しかった。本書によって、正確な釈読文を作成できるツールが提供され、解説と研究を提示したことは、学界に寄与する点大きい。
2. 地域連携として、国府・国分寺が所在する市川市地域の研究に取り組み、『市川市史』歴史編Ⅲ「まつりごとの展開」の刊行に協力することができた。同市史は地域に根ざした市史を目標としており、古代学研究成果を地域に発信できたことは、研究成果の公開・還元という意味でも大きな成果である。
3. 「除秘鈔」「除秘鈔附」は、年中行事に関係する「天下の孤本」であり、ほぼ釈読を終えたことは大きな成果である。2019年度は研究を継続させ、2020年度の写真・釈読・研究の刊行をめざしたい。
4. 全国墨書土器・刻書土器横断検索データベースのオンライン版（試行版）は、各地域の埋蔵文化財センター、博物館等で墨書土器の釈読に活用されているので、さらに拡充を強化していきたい。
5. 井上光貞『令集解』関係資料群のデータベースの公開は、古代史学界に寄与するところが大きい。ただし、一部に未完成の部分を残した。

【テーマ3】「こころ」（文芸・心性）の研究

1. 特に優れた成果として、「萬葉集仙覚本データベース」を挙げることができる。『万葉集』の従来の本文研究では仙覚本系統諸本と非仙覚本系統諸本の対立ばかりが目立っており、仙覚本系統諸本間の本文の分析はほとんど行われていない状況であった。しかるに、複数回にわたる仙覚の校訂作業の存在に注目し、仙覚本系統同士を検証すると、仙覚自身の読みの展開を含む伝来間の本文の変遷を捉えることができる。今回完成させたデータベースは、仙覚本系統諸本の詳細な本文異同が一覧でき、これにより『万葉集』本文のより精緻な分析が可能になり、『万葉集』研究におけるその意義は非常に大きいといえる。
2. 『源氏物語』研究の成果として、湯浅幸代の研究が著書となった『源氏物語の史的意識と方法』（*50）。本プロジェクトの成果のいくつかを収録し、体系化して示したもので、『源氏物語』研究の新たな重要な一局面を開くものである。

<課題となった点>

【日本古代学研究成果の世界的拠点形成】

<日本古代学研究成果の世界的拠点形成>はおおむね計画通りの成果を上げることができたが、研究期間終了後のデジタル公開システムの維持管理・拡充については、個別プロジェクトでは対応しきれない部分があり、大学を挙げて検討する必要がある。

【テーマ1～3横断】本学所蔵の研究資料群の文化資源化

1. 杉原荘介・岡正雄・井上光貞関係資料の文化資源化について、古代学検索データベースシステムによって、検索項目を指定した画像とテキストデータ検索の一般公開の体制が完了した。しかし、その補訂・維持・管理については、本事業終了後十分な体制を取るうえで課題を残している。
2. 古典籍データについて、画像データと翻刻をリンクしたデータベースとして構築すること、また万葉集データベースも仙覚本の校本データベース残された巻次のデータを追加していくこともこれからの課題である。さらに画像の閲覧にとどまる「源氏物語聞録」「うなる松」「文珠の本地」

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

に関しても、文化資源の情報化という観点から、引き続きデータベースの構築に取り組むことも必要であろう。

【テーマ1】「もの」(物資・技術・経済)の研究

1. 東アジア考古資料の分析については、蛍光X線分析は大きな成果を上げたが、なお測定サンプル数は限定的である。日本国内および韓国・中国・モンゴル・東南アジアの測定データの蓄積が必要である。
2. 「漢委奴國王」金印研究も、古代中国印の駝鈕と亀鈕の形態的特徴や墓葬における各種印の扱われ方などの詳細研究を要することが明確となった。中国璽印考古学というジャンルの構築を要する。
- 1・2ともに西暦紀元前後の東アジア世界の歴史動向を具体的資料の分析から再構成する取り組みを継続する必要がある。
3. 日本古代学の国際化および国際比較研究は、本研究の過程でその重要性が認識されるようになったが、それだけに再度、基本情報の収集から徹底することが必要なことが痛感された。

【テーマ2】「こと」(文字・律令・制度・都市)の研究

1. 国分寺文字瓦データベースは、島根県保管の武蔵国分寺平塚運一コレクションの調査は終了したが、武蔵国分寺瓦の総括的研究が完遂できなかった。
2. 井上光貞『令集解』関係資料群のデータベースには、一部に未完成の部分があるので、早急にデータベースを補訂する必要がある。
3. 総括的研究である日本の国家形成と文字の利用については、百済との関係を含め、学界全体の研究課題である。天智・天武朝における律令法の施行、文字の利用法などを含め、天智・天武朝の歴史的意義を明確にし、浄御原令と大宝令との比較研究が必要である。

【テーマ3】「こころ」(文芸・心性)の研究

時代・ジャンルを越えた古代心性研究の新局面を開くことの難しさを知ることとなった。上記

- 【1】(5)の成果はあるが、個別研究が多く、成果を出したのに比して、総合的研究は弱かったと評価せざるを得ない**

<自己評価の実施結果と対応状況>

【日本古代学研究の世界的拠点形成】

<日本古代学研究の世界的拠点形成>に関する研究期間終了後のデジタル公開システムの維持管理・拡充が課題として残ったと自己評価しており、国際日本古代学研究クラスターを2019~20年度の2か年更新を大学に申請して了承を得たので、検討を継続する。

【テーマ1~3横断】本学所蔵の研究資料群の文化資源化

岡正雄・井上光貞・杉原荘介関係資料の文化資源化について、デジタル撮影とサーバー上へ搭載し、これとリンクする検索用データを作成しつつ、年度ごとに既存のデータを点検し修正を施してきた。システム開発について、メタデータ作成の経験をもとに、画像データ取得済み分から検索システムの検討・修正を進め、2016年度までに古代学検索データベースシステムとして構築することができた。さらに古代学研究所が保管する古典籍の各種画像と内容テキストを同時に検索・閲覧できるシステムが必要であると判断し、既存の岡正雄・井上光貞・杉原荘介関係資料と統合した検索システムとするようシステムの改良修正も行った。所期の目的を達成できたと考える。

【テーマ1】「もの」(物資・技術・経済)の研究

ポータブル型蛍光X線分析装置を用いた国内外での分析は、資料所蔵機関との事前の手続き等にかかなりの手間を要するが、国内のみならず、ベトナム・モンゴルでの分析を行い、10年前には想定していなかったような東アジアにおける広域にわたる交易の実態が把握できた点は評価してよい。なお測定数の蓄積を図る継続が必須である。

「漢委奴國王」金印研究については、真贋論争もあって学界およびマスコミの関心も高く、報道機関からの取材や講演依頼も少なくない。研究成果の独自性と相まって、一定の外部評価を得ていると自負する。今後一層分析の制度と多角性を担保して研究レベルの向上を図る。

【テーマ2】「こと」(文字・律令・制度・都市)の研究

墨書土器や文字瓦のデータベースは、各都府県の埋蔵文化財センターや博物館において、現実に活用されており、研究成果が実際に有効に機能している。これらは本来、国立の研究機関で行うべき仕事であるが、プロジェクト研究の成果として活用されていくことは評価されて良いと考

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

える。また、各種のデータベースの公表も歴史学・考古学等の人文科学研究に資することが少なくない。最近では、研究論文や調査報告に引用されており、本プロジェクトが社会的に認知されてきたと思われる。東山文庫本『令集解』等の公開については、引き続き努力していきたい。

広開土王碑拓本研究の公刊は研究期間の最後になったが、すでに研究を前進させるツールとして高い評価が寄せられている。4世紀末の日本列島の状況を示す史料は他になく、広開土王碑の研究をめぐっては、日本・韓国・北朝鮮・中国間の「歴史認識」の問題でもあった。比較可能な写真の公開と研究発信は、事実から出発する歴史学・考古学にとって、誰もが共有可能な素材の提示であり、歴史学界のみならず、今後の日朝韓中における共同研究の出発点になると確信する。歴史教育においても必須の研究・教育史料となる。

また、明治大学リバティアカデミーにおいて、「古代学研究の最前線」シリーズを毎年開催してきたが、受講生と懇談することによって、研究の社会的発信については常に考えてきた。今後は、『古代史をひらく』（岩波書店刊）、『新版 古代史の基礎知識（仮）』（角川書店刊）、『7世紀史の研究』（八木書店予定）などの出版というかたちで社会的評価を受けるようにしたい。

【テーマ3】「こころ」（文芸・心性）の研究

歌や物語など文芸テキストから古代の心性を探る研究はプロジェクトメンバーの個々の研究により大きな成果を挙げた。特に優れた成果としても挙げたが、『源氏物語の史的意識と方法』と題する著書が刊行されたことは、物語研究の場として明治大学が重要な役割を担うことを示している。また、心性研究資料の文化資源化という面でも、重要なデータベースを完成することができた。「萬葉集仙覚本データベース」は萬葉集に関心を持つ者に有用な情報であり、『源氏物語聞録』ほかの古典籍データベースは、古典籍に関心を持つ者の関心を集めている。一方、個々のジャンル・時代を超えた総合的心性研究体制の構築という面では、メンバー間の連携が不十分であった。それを打開するために、2017年度に外部からの研究者も招聘して研究集会を実施して、一定の効果を挙げたが、まだまだ展開の余地は残されている。東アジアを視野に入れた心性研究については、ベトナムの資料については予備的調査を行うのみとなった。しかし、韓国漢文小説については、3年ほどの間、毎月1回の研究会を継続できた。その成果も出版する予定であり、東アジア心性研究の重要な拠点と認識されるようになっている。

＜外部(第三者)評価の実施結果と対応状況＞

第三者評価は計画したものの経費の問題から実現できなかった。

ただし、研究成果の社会発信として多くの公開シンポジウムを重ねているが、その開催については事前にホームページやダイレクトメールなどで周知を図り、開催した折には会場で専門家および一般の方々の批判や評価をじかにいただいている。しかし、それ自体では第三者に評価内容が分からない問題があるので、今後は参加者アンケートを徹底し、それへの対応情報をHPに掲載するなどによって開示する方策を取りたい。

なお、日本古代学研究は、日本各地の地域の歴史認識と直結しており、地方自治体との連携によって地域住民に研究成果を還元することが外部評価につながる面をもつと考える。

＜研究期間終了後の展望＞

【日本古代学研究の世界的拠点形成】

＜日本古代学研究の世界的拠点形成＞およびデジタル公開システムの維持管理・拡充については、個別プロジェクトでは対応しきれない部分があり、大学内の他セクションと共同して検討する必要がある。

【テーマ1～3横断】本学所蔵の研究資料群の文化資源化

1. 古代学研究所HPを介して一般公開された杉原荘介・岡正雄・井上光貞関係資料については、資料の追加や資料の補訂を要するという課題はあるものの一応の完成を見た。今後は、この資料群を用いた共同研究こそが次に進められるべきであり、その組織化を図る必要がある。
2. もっとも重要なのは、本プロジェクトの課題＜日本古代学研究の世界的拠点形成＞であり、古代学検索データベースシステムの完成を土台として、これまで実績あるアジア・欧米各地の研究組織・研究者との交流を継続発展させるための課題の検討を行うことが求められている。
3. それをより具体化するために、中国の中国社会科学院・南京大学、韓国の高麗大学校・忠南大学校・慶北大学校、アメリカ合衆国の南カリフォルニア大学など、研究連携機関との重点化と制度化（研究協力協定締結／一部実現済み）を進める計画である。

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

【テーマ1】「もの」(物資・技術・経済)の研究

1. 蛍光X線分析装置による玉類・ガラス製品の分析は、国内および東アジア各地で測定データを蓄積する必要がることは言うまでもない。科研費研究費の立案実施により実現する。
2. 「漢委奴國王」金印は、もはや金印のみの検討ではなく、中国璽印考古学というジャンルの構築が必要な段階にきている。そのためには中国の研究組織との連携・協力が必須であり、相互交流を通じて、その実現を図る。
3. 日本古代学の国際化プロセスの研究には、日米欧の研究者からの情報収集と資料・データの収集が必須である。他大学研究者との連携を行いながら、組織的な取り組みができる体制を構築する。
4. 岡正雄に関する取り組みで本研究の重要な成果の一つに、日本民族学形成期の重要業績である岡正雄の学位論文の邦訳がある。邦訳自体はほぼ終了したが、その刊行は物理的に困難であったことから、早い段階での刊行を実現する予定である。

【テーマ2】「こと」(文字・律令・制度・都市)の研究

1. 国分寺文字瓦データベースについては、武蔵国分寺瓦の総括的研究が完遂できなかったため、今後は、科研費の応募を含め、データベースの拡充をはかりたい。
2. 井上光貞『令集解』関係資料群のデータベースには、一部に不備があるようなので、2019年度中に補訂して、公開するデータベースを整備したい。新年度から作業を再開したい。
3. 総括的研究である日本の国家形成と文字の利用については、倭国と百済との関係、天智・天武朝における律令法の施行、文字の利用法などを含め、天智・天武朝の歴史的意義を明確にし、浄御原令と大宝令との比較研究など引き続き研究を進めていきたい。『七世紀史研究(仮称)』の出版企画に結びつけて研究を継続する。

【テーマ3】「こころ」(文芸・心性)の研究

1. 萬葉集のデータベースについて、科研費の取得を目指し、より充実したものとなるよう拡充を図る。
2. 『除秘鈔』については明治大学図書館と連携し、影印と翻刻の刊行に向けて準備を進めている。2020年12月の刊行に向けて、翻刻を完成させる研究会を継続し、図書館・出版社と連携・調整を行っている。本書は除目作法について他に存在が知られない貴重書であり、刊行が実現すれば、日本史研究・日本文学研究で大きな注目を集める。
3. 韓国漢文小説については、韓国の財団からの助成金を獲得した。2019年度に白帝社から書籍として成果を刊行するために、現在、原稿の最終チェックを行っている。日本で紹介されていない韓国漢文小説の積文と注釈および現代語訳を提供するものであり、前近代社会における人々の心性をアジア規模で研究するための有用な資料を提供することになる。
4. 古代心性研究について、プロジェクト期間中、メンバー間の連携が不十分だった面がある。学内外の研究者と連携して研究会を開催し、実績を積んだ上で科研費などに応募して心性研究を継続していく。

<研究成果の副次的効果>

1. 山崎健司「万葉集の類型に関する「梅花歌三十二首再読」(*35)が、今般発表された新元号の出典に関連して複数の報道機関の目に留まり、取材を受ける機会が多く発生している。
2. 石川日出志の「漢委奴國王」金印=後漢初期説については、金印真贋論争に関連して注目され、新聞・TVなどの取材・報道が数次に及んだ。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 日本古代学研究 (2) 文化資源化 (3) 蛍光X線分析
(4) 墨書土器 (5) 万葉集 (6) 源氏物語
(7) 古代心性 (8) 金印

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

<雑誌論文>

【テーマ 1】「もの」(物資・技術・経済)の研究

- *1: 石川日出志「「漢委奴國王」金印的再検討」『大衆考古』2015.05 (総第 023 期), 江蘇人民出版社有限公司, 査読無, pp. 51-57, 2015 年 5 月
- *2: 石川日出志「「漢委奴國王」金印と漢代尺・金属組成の問題」『考古学集刊』第 11 号, 明治大学文学部考古学研究室, pp. 93-103, 査読有, 2015 年 5 月 22 日.
- ・石川日出志「金印と弥生時代研究—問題提起にかえて—」『古代学研究所紀要』第 23 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 99-109, 査読無, 2015 年 11 月 18 日.
- ・鈴木勉・高倉洋彰・大塚紀宜・石川日出志(司会)2015「公開研究会<「漢委奴國王」金印研究の現在>: 質疑応答」『古代学研究所紀要』第 23 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 145-153, 査読無, 2015 年 11 月 18 日.
- *3: 石川日出志「東夷印の中の「漢委奴國王」金印」(黄曉芬・鶴間和幸編)『東アジア古代都市のネットワークを探る一日・越・中の考古学最前線』, 汲古書院, pp. 197-204, 査読無, 2018 年 2 月 26 日
- *4: 石川日出志「「漢委奴國王」金印の複眼的研究」『第 5 回“弧山証印”西泠印社印学峰会』, 和文 pp. 1544 - 1551・中文 pp. 1552 - 1563, 査読無, 2017 年 11 月
- *5: 石川日出志「複眼的日本古代学研究—金印をめぐる実践—」『古代学研究所紀要』第 28 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 3-25, 査読無, 2019 年 3 月 29 日
- *6: 中村大介「楽浪郡以南における鉄とガラスの流通と技術移転」『物質文化』95 号, pp. 4-19, 査読有, 2015 年
- ・中村大介・藁科哲男・福辻淳「大和盆地東南部出土の石製玉類の産地同定」『纏向学研究』第 4 号, 桜井市纏向学研究センター, pp. 89-115, 2016 年 3 月.
- ・中村「環日本海における石製装身具の変遷」『古代学研究所紀要』第 24 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 3-24, 査読無, 2016 年 3 月.
- ・藁科哲男・中村大介「ポータブル蛍光 X 線分析装置を用いた碧玉製玉類の分析」『古代学研究所紀要』第 24 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 25-42, 査読無, 2016 年 3 月.
- ・中村大介・藁科哲男・忽那敬三「明治大学博物館所蔵の碧玉製玉類の産地同定」『明治大学博物館研究報告』第 22 号, 査読有, 2017 年 3 月.
- ・中村大介「楯築墳丘墓出土玉類の産地同定」『埼玉大学紀要(教養学部)』53 巻第 1 号, pp. 113-132, 査読無, 2018 年 2 月 9 日
- ・佐々木憲一・小野寺洋介・尾崎裕妃「茨城県石岡市佐自塚古墳再測量調査報告」『考古学集刊』第 11 号, 明治大学文学部考古学研究室, pp. 105-119, 査読無, 2015 年 5 月
- ・佐々木憲一・田中裕・岩田薫・阿部芳郎・木村翔・小野寺洋介・尾崎裕妃「茨城県小美玉市塚山古墳発掘調査報告」『古代学研究所紀要』第 24 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 43-77, 査読無, 2016 年 3 月.
- *8: 佐々木憲一“Kofun Era and the State Formation in Japan.” *Routledge Handbook of Premodern Japanese History*, Karl Friday (編), 査読無, Routledge, pp. 68-81, 2017 年
- *9: 佐々木憲一“Social Stratification and the Formation of Mounded Tombs in the Kofun Period of Protohistoric Japan.” *Burial Mounds in Europe and Japan*, edited by Thomas Kopf, Werner Steinhaus and Shin'ya Fukunaga, pp. 87-99, Archaeopress, Oxford. 2018 年 10 月
- *10: 佐々木憲一“Adoption of the Practice of Horse-Riding in Kofun Period Japan: With Special Reference to the Case of the Central Highlands of Japan.” *Japanese Journal of Archaeology*, Vol. 6, No. 1, pp. 23-53. (日本考古学協会, 2018 年 9 月)
- *11: 佐々木憲一「杉原荘介とアメリカ人考古学者との交流」『古代学研究所紀要』第 27 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 23-36, 査読無, 2019 年 2 月
- ・佐々木憲一「古墳時代考古学による欧米国家論の検証」安斎正人(編)『理論考古学の実践』, 同成社, pp. 81-99, 査読無, 2017 年 6 月 5 日
- ・佐々木憲一「茨城県行方市大日塚古墳発掘調査報告」『明治大学人文科学研究所紀要』第 82 冊, pp. 31-77, 査読有, 2018 年 3 月 31 日

【テーマ 2】「こと」(文字・律令・制度・都市)の研究

- ・加藤友康「吉田晶氏と日本古代社会論—『日本古代村落史序説』・村落首長制論を中心に—」『歴史科学』220・221, pp. 120 - 132, 査読有, 2015 年 5 月

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- ・加藤友康「平安期における鞠智城—9世紀～10世紀の対外関係と「菊池城院」「菊池郡城院」—」『鞠智城東京シンポジウム2015 成果報告書 律令国家と西の護り, 鞠智城』, 熊本県教育委員会, pp. 73-90, 査読無, 2016年3月
- ・加藤友康「古代法と「国例」」, 出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編『概説日本法制史』弘文堂, pp. 111～114, 査読無, 2018年3月30日
- ・加藤友康「尊経閣文庫所蔵『小右記』解説(『小右記 9』〔『尊経閣善本影印集成』64)〕, 八木書店, pp. 171-183, 査読無, 2018年11月25日
- ・吉村武彦「「古代史からみた王権論」『日本古墳時代研究の現状と課題』(韓国語版), Zininzin Co. Ltd, 2016年9月
- ・吉村武彦「東アジアにおける日本古代国家形成の諸問題(覚書)」『日本古代学』第8号, 明治大学日本古代学教育・研究センター, pp. 71-87, 査読無, 2016年3月.
- ・吉村武彦「田中良之の家族論・親族論と古代史学」『骨からみた古代日本の親族・儀礼・社会』, すいれん舎, 査読無, pp. 493-509, 2017年6月
- ・吉村武彦「王権と交通」『日本古代の道路と景観』, 八木書店, pp. 514-519, 査読無, 2017年5月
- ・吉村武彦「大宝田令の復元と『日本書紀』」『明治大学人文科学研究所紀要』80, 明治大学人文科学研究所, 査読有, 2017年3月
- ・吉村武彦「出土木簡の「歌詞」と『日本書紀』歌謡」『萬葉』227, 萬葉学会, 査読無, pp. 1-22, 2019年3月
- *12:** 吉村武彦「歴史学から見た古墳時代」『前方後円墳』岩波書店, 2019年5月(予定)
- ・川尻秋生「船を操る技術」館野和己・出田和久編『日本古代の交通・交流3, 遺跡と技術』, 吉川弘文館, pp. 300-321, 査読無, 2016年9月
- ・川尻秋生「古代東国の在地社会と仏教—村落寺院・開発・双堂—」『民衆史研究』93号, pp. 31-50, 査読無, 2017年5月
- ・川尻秋生「九世紀における唐制受容の—様相—中世文書様式成立の史的前提—」『日本史研究』667号, 査読有, pp. 1-23, 2018年3月
- ・川尻秋生「使者と文書」新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』勉誠4版, 査読無, pp. 111-127, 2018年1月
- *13:** 山路直充・矢越葉子「平塚運—古代瓦コレクション 武蔵国分寺文字瓦の調査—中間報告—」『古代学研究所紀要』第25号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 23-95, 2018年3月30日.
- ・井上和人「唐長安城(隋大興城)形制規格復元試論」『条里制・古代都市研究』第32号, 51-72ページ, 査読有, 2017年3月.
- ・井上和人「日本列島古代山城の軍略と王宮・都城」『日本古代学』第9号, 明治大学日本古代学教育・研究センター, pp. 1-33, 査読有, 2017年3月.
- 【テーマ3】「こころ」(文芸・心性)の研究**
- *14:** 牧野淳司「表白論の射程—寺社文化圏と世俗社会との交錯—」『アジア 遊学』174号, pp. 128-139, 査読無, 2014年6月
- *15:** 牧野淳司「唱導資料から見る堂舎建立と造仏の営み」『説話文学研究』53号, pp. 6-20, 査読有, 2018年8月
- *16:** 牧野淳司「「御法」の物語としての源氏物語—源氏供養の発生と結縁の心性—」『古代学研究所紀要』第27号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 右25-右35, 査読無, 2019年3月
- ・牧野淳司「『平家物語』と唱導文化との関わりについての総合的研究—後白河法皇をめぐる唱導の観点から—」『明治大学人文科学研究所紀要』第84冊, pp. 1-12(縦), 査読有, 2019年3月
- *17:** 山崎健司「萬葉歌の類型的表現における表現性」『文芸研究』第126号, pp. 39-50, 査読有, 2015年3月
- *18:** 山崎健司「仙覚本における「読み」の展開—文永三年本と文永十年本の異同をめぐる—」『萬葉』第221号, pp. 24-43, 萬葉学会, 査読有, 2016年3月31日.
- *19:** 山崎健司「梅花歌三十二首再読」『萬葉集研究』第36集, 塙書房, pp. 53-82, 招待有, 2016年12月
- *20:** 山崎健司「うら悲しき景—大伴家持の春愁歌の表現をめぐる—」『国語と国文学』第94巻第4号, pp. 3-17, 査読有, 2017年4月.
- *21:** 山崎健司「萬葉の歌ことばと古代人のこころ—「かなし」をめぐる—」『古代学研究所紀

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- 要』第 27 号, pp. 3-12, 査読無, 2019 年 2 月
- *22: 山崎健司「萬葉集仙覚本データベースの概要と可能性」『古代学研究所紀要』第 28 号, pp. 45-54, 査読無, 2019 年 3 月 29 日
- *23: 湯浅幸代「『源氏物語』蜚巻の物語論—物語と史書との関わりを中心に—」『明治大学古代学研究所紀要』第 23 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 1-10, 査読無, 2015 年 11 月 18 日.
- *24: 湯浅幸代・関恭平・小滝真弓「明治大学日本古代学研究所所蔵 土肥経平『花鳥芳囀』解題・翻刻」『明治大学古代学研究所紀要』第 23 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 13-45, 査読無, 2015 年 11 月 18 日.
- ・湯浅幸代「『源氏物語』の注釈書はなぜ思想書となったか」松田浩ほか編『古典文学の常識を疑う』, 勉誠出版, pp. 100-103, 査読無, 2017 年 5 月
- *25: 湯浅幸代「『源氏物語』の立后と皇位継承—史上の立后・立坊例から宇治十帖の世界へ—」『中古文学』第 98 号, 中古文学会, pp. 75-89, 査読有, 2016 年 12 月
- *26: 湯浅幸代「『うつほ物語』国譲巻に見る氏族の論理—「かぐや姫」の見定める「心ざし」と『九条右丞相遺誡』の「一心同志」から—」『日本文学』第 66 巻第 2 号, 日本文学協会, pp. 1-12, 査読有, 2017 年 2 月.
- ・湯浅幸代「『源氏物語』住吉の浜」(鈴木健一編『浜辺の文学史』三弥井書店, pp. 71-87, (査読無), 2017 年 2 月
 - ・湯浅幸代「普遍性と親和性—古典文学を学ぶこと—」『文芸研究』132 号, 明治大学文学部, pp. 97-102, 査読無, 2017 年 3 月.
- *27: 湯浅幸代「『源氏物語』の「心の鬼」—「鬼」の表現をめぐる—」『古代学研究所紀要』第 27 号, 明治大学日本古代学研究所, pp. 9-14, 査読無, 2019 年 2 月,
- ・湯浅幸代「物語は離婚と財産分与をどう書いたか」松田浩ほか編『古典文学の常識を疑う II』, 勉誠出版, 頁数未定, 2019 年 5 月刊行予定
 - ・湯浅幸代「『源氏物語』住吉の浜」(鈴木健一編『浜辺の文学史』三弥井書店, pp. 71-87, 査読無, 2017 年 2 月
 - ・湯浅幸代「『源氏物語』の注釈書はなぜ思想書となったか」松田浩ほか編『古典文学の常識を疑う』, 勉誠出版, pp. 100-103, 査読無, 2017 年 5 月
- *28: 湯浅幸代「江戸中期の源氏物語注釈書・土肥経平『花鳥芳囀』について—明治大学日本古代学研究所所蔵本の紹介とその位置づけから—」(原岡文子・河添房江編)『源氏物語煌めくことばの世界 II』翰林書房, pp. 675-695, 査読無, 2018 年 4 月
- *29: 湯浅幸代・関恭平・上村菜由「明治大学日本古代学研究所 所蔵土肥経平『花鳥芳囀』校異表—池田家文庫本との比較」『古代学研究所紀要』第 28 号, pp. 1-16, 査読無, 2019 年 3 月
- *30: 居駒永幸「出雲・日向神話の歌と散文—歌の叙事による表現世界とその注釈—」(『明治大学人文科学研究所紀要』第 74 号, 2016. 3)
- ・居駒永幸「神武記の久米歌と散文—天つ神御子説話の方法とその注釈—」『明治大学経営学部人文科学論集』第 63 号, 2017 年 3 月
- *31: 居駒永幸「記・紀の歌のヴァリエント—異伝注釈を通して—」『古代文学』第 56 号, 査読無, 2017 年 3 月
- *32: 居駒永幸「神武記の立后と謀反—歌と散文の方法とその注釈—」『明治大学教養論集』第 529 号, pp. 1-2, 査読無, 2017 年 9 月 30 日
- *33: 居駒永幸「景行記の歌と散文 (I) —表現空間の解説と注釈—」『明治大学教養論集』第 532 号, pp. 101-151, 査読無, 2018 年 3 月 31 日
- *34: 居駒永幸「景行記の歌と散文 (II) —表現空間の解説と注釈—」『明治大学教養論集』第 534 号, 査読無, pp. 111-123, 2018 年 9 月 30 日
- *35: 居駒永幸「仁徳記の歌と散文 (I) —表現空間の解説と注釈—」『明治大学教養論集』第 537 号, pp. 69-104, 査読無, 2018 年 12 月 25 日
- *36: 居駒永幸「仁徳記の歌と散文 (II) —表現空間の解説と注釈—」『明治大学教養論集』第 539 号, 査読無, 2019 年 3 月
- *37: 居駒永幸「崇神・仲哀記の歌と散文—表現空間の解説と注釈—」『明治大学経営学部人文科学論集』第 65 号 c, 2019 年 3 月
- *38: 居駒永幸「応神記の歌と散文」『明治大学人文科学研究所紀要』第 78 号, 査読有, 2019 年 3 月

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- *39: 居駒永幸「仲屋まぶなりと多良間大司の悲劇—史書とアヤゴと伝説のあいだ—」『海の宮』第10号, 査読無, 2015年9月
- *40: 居駒永幸「宮古島狩侯のウヤガン祭マトガヤーと神歌—「マトガヤー」と「タラマウプツカサ」—」『明治大学教養論集』第516号, 査読無, 2016年3月
- *41: 居駒永幸「宮古島の二つの壺」『海の宮』第12号, 査読無, 2016年11月
- *42: 居駒永幸「魂のゆくえ—柳田国男と谷川健一—」『海の宮』第16号, 査読無, 2018年12月

<図書>

- 【テーマ1】「もの」(物資・技術・経済)の研究
- *43: ISHIKAWA Hideshi, Josef KREINER, SASAKI Ken' ichi, YOSHIMURA Takehiko (eds.) 2016 *Proceedings of the International Symposium on ORIGINS OF OKA MASAO'S ANTHROPOLOGICAL SCHOLARSHIP.* Meiji University, November 27, 2015. Bonn, Bier'sche Verlagsanstalt. (239 pages). (国際シンポジウム「岡正雄の人類学的学問の形成過程」報告書(全文英語・要旨・引用文献のみ日本語))
- ・佐々木憲一(編著)『霞ヶ浦の前方後円墳』明治大学文学部考古学研究室・六一書房, 2018年2月28日
- *44: 佐々木憲一(Mark E. Byington, Martin Bale と共編著, 佐々木 2 番目) *Early Korea-Japan Interactions*, 共編, Korea Institute, Harvard University 刊, 査読有, 佐々木担当は pp. 10-14, pp. 271-371, 2018年5月
- 【テーマ2】「こと」(文字・律令・制度・都市)の研究
- ・吉村武彦『蘇我氏の古代』, 全276頁, 岩波書店, 2015年12月18日
- *45 吉村武彦『大化改新を考える』1-244頁, 岩波新書, 2018年
- *46: 吉村武彦・加藤友康他(共編著)『市川市史 歴史編Ⅲ』市川市, 2019年1月
- *47: 吉村武彦・加藤友康他(共編著)『明治大学図書館所蔵 高句麗広開土王碑拓本』八木書店, 2019年3月
- ・井上和人『日本古代の都市と条里』(共著)条里制・古代都市研究会編, 2015年4月, 吉川弘文館.
- ・鈴木靖民・川尻秋生・鐘江宏之編『日本古代の運河と水上交通』全458頁(川尻秋生「古代の運河と交通」pp.3-24), 八木書店, 2015年5月.
- ・川尻秋生『古代の東国2 飛鳥・奈良時代』, 吉川弘文館, 総266頁, 2017年2月
- 【テーマ3】「こころ」(文芸・心性)の研究
- *48: 古橋信孝・居駒永幸編『古代歌謡とは何か』笠間書院, 2015年2月
- ・金山秋男編『日本人の魂の古層』全192頁(居駒永幸「魂の還る処—民俗学者, 谷川健一さんとの対話」pp.49-88), 明治大学出版会, 2016年3月.
- *49: 村里好俊編著, 山崎健司, 半藤英明, 五島慶一ほか全10名, 『女性・ことば・表象—ジェンダー論の地平—』, 大阪教育図書, 全267頁(山崎健司「萬葉歌の女性表現としての「ゑむ」「ゑまふ」をめぐって」pp.1-30), 2017年9月
- *50: 湯浅幸代『源氏物語の史的意識と方法』新典社, 全398頁, 2018年1月

<学会発表>

- 【テーマ1～3横断】本学所蔵の研究資料群の文化資源化
- *51: 加藤友康「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(新大型研究)による統合型検索システムの開発・と文化資源化」, (交響する古代Ⅷ), 明治大学古代学研究所・明治大学大学院文学研究科主催, 明治大学AC2階A4・5会議室, 2017年12月1日
- *52: 加藤友康「文化資源の研究資源化と統合型検索システムの開発」国際学術研究会<交響する古代Ⅸ>, (於: 明治大学駿河台キャンパス・グローバルホール), 2019年1月12日
- 【テーマ1】「もの」(物資・技術・経済)の研究
- ・石川日出志「漢委奴國王」金印と漢～魏晋代の古印」, 第5回高麗大学校・明治大学国際学術会議, 高麗大学校 BK21Plus 韓国語文学未来人材育成事業団・韓国史学未来人材育成事業団・明

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

治大学大学院文学研究科，於：韓国・高麗大学校韓国学館，2015年9月11日

- * 53 : 石川日出志「Post-WWII Japanese Archaeology and the Founding of the Japanese Archaeological Association in 1948」 (世界考古学会議第8回京都大会 WAC8 公開講演会)，同志社大学室町キャンパス，2016年8月28日
- * 54 : 石川日出志「日本考古学界の組織化と共同研究」 <公開シンポジウム<戦後日本考古学と杉原荘介>，明治大学日本古代学研究所，(於：L1123 教室)，2017年11月11日
- ・石川日出志「「漢委奴國王」金印研究の到達点」<東北アジア考古学研究会月例会>，(於：東京大学法文学部1号館3階316教室)，2017年11月15日
- * 55 : 石川日出志「杉原荘介と中韓考古学交流」 <交響する古代VIII>，明治大学古代学研究所・明治大学大学院文学研究科主催，(於：AC2階，A4・5会議室)，2017年11月30日
- ・石川日出志「「漢委奴國王」金印駝鈕再加工作説を評価する」<古代における日中交流>明治大学・中国社会科学院学術交流会，(於：明治大学グローバルフロント・グローバルホール)，2018年3月21日
- * 56 : 石川日出志「日本考古学協会の設立と初期の活動」 <第84回日本考古学協会総会70周年記13 公開講演会>，於：明治大学・リバティホール，2018年5月26日
- ・石川日出志「「漢委奴國王」金印からみた東アジア社会」<古代研国際シンポジウム<社会変化とユーラシア東西交易—考古学と分析科学からのアプローチ—>>，於：明大L1011教室，2019年2月23日
- * 57 : 中村大介「Trade route of the glass beads around the Yellow Sea from 1st century BCE to 3rd century CE」，15th international conference of the European Assn of Southeast Asia Archaeologists (E u r A S E A A,)，2015年7月6-10日。
- ・藁科哲男・中村大介・福辻淳「纏向遺跡出土の石製装身具の産地同定」(日本文化財化学会第33回大会)，奈良大学，2016年6月4日
- * 58 : TAMURA Tomomi, NAKAMURA Daisuke, EREGZEN Gelegdorj, Archaeometrical Approach to Glass Beads Trade in the Xiongnu Period, Eighth Worldwide Conference of the SEAA, Nanjing University International Convention Center, 10th of June, 2018.
- * 59 : 中村大介「青銅器時代から匈奴時代における遊牧社会の長距離交易」 <古代研国際シンポジウム<社会変化とユーラシア東西交易—考古学と分析科学からのアプローチ—>>，(於：明大L1011教室)，2019年2月23日
- * 60 : 中村大介・田村朋美「漢代における草原と海上のガラス交易」 <復旦大学東アジア考古学講演会> (招待講演)，復旦大学博物館 (中国・上海)，2019年3月25日。
- * 61 : 佐々木憲一「Introduction of a Practice of Horse-Riding in Fifth-Century Japan and its Political Significance.」 アメリカ考古学会 Society for American Archaeology，第80回総会での発表 (於サンフランシスコ) 2015年4月16日，
- * 62 : 佐々木憲一「Regional Difference in Elite Symbolism during Kofun Period Japan.」 (第8回世界考古学会議 WAC8)，同志社大学，2016年8月29日。
- * 63 : 佐々木憲一「Archaeological Investigations into the Omuro Cairn and Earthen Mound Group, Central Highlands of Japan (5th to 7th Centuries A.D.).」 アメリカ合衆国ペンシルベニア大学，2016年10月3日
- * 64 : 佐々木憲一「State Formation in Japan: A View from Eastern Periphery」，<Asian Archaeology Seminar>，ハーヴァード大学人類学研究科・東アジア言語文明学研究科共催，アメリカ合衆国ハーヴァード大学 CGIS 地下1階，2017年6月22日
- * 65 : 佐々木憲一「Distributing the “Standard” of Mound Construction to Local Elites as an Example of Inalienable Wealth」，<第2回 European Association for East Asian Art and Archaeology>，スイス連邦チューリッヒ大学，2017年8月25日
- * 66 : 佐々木憲一「Periodization in Japanese Archaeology: Case of the Yayoi-Kofun transition」 <European Association for Japanese Studies>，ポルトガル・リスボン新大学，2017年9月1日
- * 67 : 佐々木憲一「Center and Periphery in the Early State Formation in Japan」 <Roundtable Discussion: Archaeology and the Early Japanese State>，プリンストン大学考古美術史学科・東アジア学科共催，プリンストン大学，2017年10月12日

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- *68：佐々木憲一（明治大学文学部教授）「杉原荘介の北アメリカ研究者との交流」＜交響する古代Ⅷ＞，明治大学古代学研究所・明治大学大学院文学研究科主催，（於：AC 2階，A 4・5 会議室），2017年11月30日
- 【テーマ2】「こと」（文字・律令・制度・都市）の研究
- ・吉村武彦「日本歴史学における時代区分の問題」，＜European Association for Japanese Studies＞ヨーロッパ日本学会，ポルトガル・リスボン新大学，2017年9月2日
 - ・吉村武彦「倭国の政治的・文化的発展と百済・高句麗」明治大学・高麗大学校学術交流研究会，明治大学，グローバルフロント，2017年11月10日
 - ・吉村武彦「井上光貞の令集解研究」井上光貞生誕100周年記念シンポジウム＜日本の律令と令集解研究＞，日本古代学研究所，明治大学グローバルホール，2017年9月30日
 - ・吉村武彦「大化改新と社会生活の改革—愚俗の改廃—」＜中国社会科学院・明治大学学術交流＞，明治大学大学院・文学部共催，明治大学グローバルホール，2018年3月21日
- *69：吉村武彦「出土木簡の「歌詞」と『日本書紀』歌謡」第71回萬葉学会全国大会，熊本市国際交流会館ホール，2018年10月27日
- ・吉村武彦「歌木簡と旧辞論の再構築」国際学術研究会＜交響する古代Ⅸ＞，（於：明治大学駿河台キャンパス・グローバルホール），2019年1月12日
 - ・山路直充「『香取の海』をめぐる郡家と寺院・神社の造営」史学会例会 シンポジウム「古代東国の地方官衙と寺院」，（於：東京大学），2015年9月。
 - ・加藤友康「古事談における古記録の抄録—貴族たちが共有した「世界」—，国際日本文化研究センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」2015年度第6回研究会報告，（於：国際日本文化研究センター），2016年3月5日。
 - ・加藤友康「古事談の情報源—古記録が筆録した情報と「言談」への変容の検討を通して考える—」（国際日本文化研究センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」2016年度第3回研究会報告），国際日本文化研究センター，2016年9月11日
 - ・加藤友康「平安時代とは（コメント）」，＜European Association for Japanese Studies＞ヨーロッパ日本学会，ポルトガル・リスボン新大学，2017年9月2日
 - ・加藤友康「東アジアのなかの平安文化」，＜南京大学歴史学院“考古名家講壇”第11期＞，南京大学歴史学院主催，南京大学仙林校区：仙I-108教室，2017年11月2日
 - ・井上和人「唐長安城（隋大興城）形制規格復元試論」『条里制・古代都市研究』第32号，51-72頁，2017年3月。（査読有）
 - ・井上和人「日本列島古代山城の軍略と王宮・都城」『日本古代学』第9号，1-33頁，2017年3月。（査読有）
 - ・川尻秋生「古代東国の在地社会と仏教」（民衆史研究会2016年度大会シンポジウム），早稲田大学，2016年11月27日
 - ・川尻秋生「九世紀における唐制受容の一樣相—中世文書様式成立の史的前提—」2017年日本史研究会大会（個別報告），2017年9月14日（土），京都学園大学
- 【テーマ3】「こころ」（文芸・心性）の研究
- ・牧野淳司「唱導における翻訳の想像力」（The 2nd East Asian Translation Studies Conference），明治大学，2016年7月10日
 - ・牧野淳司「平安時代後期の日本仏教と高麗」（第7回明治大学・高麗大学校国際学術会議），韓国・高麗大学校，2016年9月7日
 - ・牧野淳司「唱導資料から見る堂舎建立と造仏の営み」，説話文学学会大会，名古屋大学，2017年6月24日
 - ・牧野淳司「安居院澄憲の唱導と西国の仏法興隆」，公開研究会＜靈験寺院の書物と言説—西国三十三所靈場を中心に＞，紀州地域学共同研究会+和歌山大学地域活性化総合センター紀州経済史文化史研究所共同主催，四天王寺大学，2017年10月1日
 - ・牧野淳司「僧侶による説経の隆盛と平家物語の誕生」，研究集会＜The Take of Heike and other warrior tales: a Japanese epic?＞，パリ・ディドロ大学，2017年10月19, 20日
 - ・牧野淳司「源氏物語注釈の諸相」，国際学術研究会＜交響する古代Ⅷ—古代文化資源の国際化とその意義 Vol. 3—＞，明治大学古代学研究所主催，（明治大学），2017年12月1日
 - ・牧野淳司「仏事と物語・和歌—「御法」の文学の意義—」，研究集会＜文芸テキストから探る古代社会の“こころ”＞，明治大学古代学研究所主催，明治大学，2018年3月11日

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- ・牧野淳司「日本中世の唱導における女性の問題—澄憲の『法華経釈』の検討—」第9回明治大学・高麗大学校国際学術会議，韓国高麗大学校，2018年9月6日
- ・牧野淳司「日本中世における女性と仏教—唱導の言説とその評価をめぐって—」USC-Meiji University Research Exchange in Japanese Historical Studies, 2018年11月2日，USC
- *70: 山崎健司「萬葉集仙覚本データベースの概要と可能性」，国際学術研究会〈交響する古代IX〉，（於，明治大学グローバルホール），2019年1月13日
- ・湯浅幸代「『竹取物語』の英訳比較—かぐや姫の描き方を中心に—」（The 2nd East Asian Translation Studies conference），明治大学，2016年7月10日
- ・湯浅幸代「江戸中期における源氏物語注釈書・土肥経平『花鳥芳囀』について」国際学術研究会〈交響する古代VIII—古代文化資源の国際化とその意義 Vol. 3〉，明治大学日本古代学研究所，明治大学，2017年12月1日
- ・湯浅幸代「『源氏物語』にみえる「心の鬼」考」明治大学日本古代学研究所研究集会〈文芸テキストから探る古代社会の“こころ”〉，明治大学，2018年3月11日
- *71: 居駒永幸「歌の原初へ」〈宮古島市宮国，宮古島の神と森を考える会シンポジウム〉，2015年11月22日
- *72: 居駒永幸「宮古島の神歌とは何か」，公開講演会『宮古島の神々の世界—神と人と海・森—』〈琉球を相対化するもうひとつのオキナワ〉，明治大学リバティホール，2016年4月16日
- *73: 居駒永幸「宮古島の祭祀・神歌—古層の2季観—」〈宮古島市新里，宮古伝承文化シンポジウム〉，2017年11月26日
- *74: 居駒永幸「琉球からみた太陽の信仰と文学」，浜松市，2019年3月26日

<研究成果の公開状況> (上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況，インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

【2014年度】

- *75: (1) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本古代学研究の世界的拠点形成」採択記念シンポジウム『明治大学の文化資源と岡正雄・杉原荘介・井上光貞』，（於：明治大学リバティタワー3階・1031教室），2014年11月22日（土）
 - ・石川日出志（明治大学文学部・研究代表）「杉原荘介と日本考古学界」
 - ・吉村武彦（明治大学文学部・研究所長）「井上光貞の律令法研究」
- *76: (2) 文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・明治大学大学院文学研究科・明治大学日本古代学教育・研究センター・明治大学研究クラスター・国際共同研究プロジェクト共催国際学術研究会『交響する古代V—日本古代学研究の国際展開—』，（於：明治大学グローバルフロント・グローバルホール），2015年2月27日・28日
 - 基調講演
 - 石川日出志（明治大学）「考古学者 杉原荘介—日本考古学の組織化と国際化」
 - 報告
 - 中村大介（埼玉大学）「楽浪郡存続期の交易と競合」
 - 川尻秋生（早稲田大学）「出土文字資料からみた総武河口論」
 - Jason P. Webb（USA・南カリフォルニア大学）「『文華秀麗集』における「梵門」詩の検討」
 - 鄭雨峰（大韓民国・高麗大学）「朝鮮通信使朴安期と江戸知識人の交流について」
 - 沈慶昊（大韓民国・高麗大学）「三国遺事と偈頌，詩歌，讚」
 - 山崎健司（明治大学）「萬葉歌における類型的表現」
 - 湯浅幸代（明治大学）「『源氏物語』 蜚卷の物語論」
 - 春成秀爾（国立歴史民俗博物館名誉教授）「榑築墳丘墓から箸墓古墳へ—龍神祭祀からたどる—」
 - Robert F. Wittkamp（ドイツ・関西大学）「英語圏における万葉集の注釈本—Jan L. Piersonの「Manyosu」とAlexander Vovinの「Manyoshu」：紹介，比較，批判」
 - 神野志隆光（明治大学大学院）「テキストがあらしめた「古代」・「歴史」・「歌」—方法として（中華人民共和国・中国社会科学院）「唐代訴訟文書の格式—辞，牒，状を中心として」
 - 陳登武（中華民国・台湾師範大学）「敦煌出土「文明判集残卷」の法律と社会の問題」
 - 大学院生セッション

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

土井翔平（明治大学大学院生）「東日本における弥生・古墳時代移行期の墓制の変遷」
五十嵐基善（明治大学大学院生）「古代日本の軍事施設について—対外防衛問題と対蝦夷問題—」
桜田真理絵（明治大学大学院生）「「後宮」の形成とその意義」
小滝真弓（明治大学大学院生）「『浜松中納言物語』における転生譚の基底—弥勒信仰との関わりから—」

【2015年度】

- *77：（1）明治大学大学院文学研究科・明治大学研究クラスター・日本古代学研究所・明治大学日本古代学教育・研究センター共催国際学術研究会『交響する古代VI—古代文化資源の国際化とその意義—』（於：明治大学グローバルフロント多目的室），2016年1月20・21日
- ・石川日出志（基調講演）「座談会<日本民族の起源>1948 とその後の日本考古学」
 - ・牧野淳司（研究発表）「源氏物語表白と院政期の文化状況」
 - ・佐々木憲一（研究発表）「在外日本考古資料の資源化」
- *78：（2）明治大学日本古代学研究所主催<岡正雄シンポジウム“Origins of Oka Masao’s Anthropological Scholarship”>（於：明治大学グローバルフロント・グローバルホール），2015年11月27日。
- ・石川日出志（趣旨説明），佐々木憲一（司会）
 - ・中生勝美： Clyde Kluckhorn: Political position and his tactics for applied anthropology in U.S.
 - ・Wolfgang Marschall： The Viennese roots of Oka Masao.
 - ・Andreas Schirmer： Korean students in Europe related to Oka Masao: Direct and indirect connections.
 - ・全京秀： Why GHQ brought Oka Masao’s dissertation from Vienna to Tokyo?
 - ・Sepp Linhart： From a myriad of gods to one single almighty god belief: Oka Masao meets Wilhelm Schimidt and Wilhelm Koppers.
 - ・Hans Dieter Olschleger： Oka Masao and Alexander Slawik: Mutual Influences between Japanese and German-speaking ethnologies.
 - ・角南聡一郎： Oka Masao’s Study for Material Culture.
 - ・中村大介： Oka Masao and Sea People.
- （3）文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業，明治大学大学院主催：公開研究会『日本民族起源論と岡正雄』（明治大学リバティータワー1086 教室），2015年7月10日
- ・石川日出志（講演）「岡正雄学説を考古学者はどう受け止めたか」
- （4）文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本古代学研究の世界的拠点形成」公開研究会『伊勢神宮・出雲大社の遷宮をめぐる』（於：明治大学リバティータワー1021 教室），2015年9月26日
- ・吉村武彦（コーディネーター）

【2016年度】

- *79：（1）2016年4月16日（土）13:30～16:30，講演会『宮古島の神々の世界—神と人と海・森—<琉球を相対化するもうひとつのオキナワ>』（主催：明治大学日本古代学研究所，共催：宮古島の神と森を考える会・宮古伝承文化研究所，後援：毎日新聞社），於：リバティホール
- ・講演：居駒永幸（明治大学経営学部・教授）「宮古島の神歌とは何か」
 - ・ビデオ報告：佐渡山安公（宮古伝承文化研究所 所長）「宮古島の神々の世界」
 - ・対談：居駒永幸・佐渡山安公「神と人と海・森～祭祀のゆくえ～」
- 写真展：2016年4月9日（土）～16日（土）／場所：明治大学駿河台キャンパス・アカデミーコモン1階展示スペース）
- *80：（2）2016年12月3日（土）13:30～17:00，公開シンポジウム「ふたたび「漢委奴國王」金印を語る」（主催／明治大学日本古代学研究所），於：リバティータワー1階 1012 教室
- ・石川日出志（明治大学文学部） 開会あいさつ・趣旨説明
 - ・石川日出志（明治大学文学部）「金印「漢委奴國王」の字形」
 - ・大塚紀宜（福岡市経済観光文化局）「古代中国駝鈕印の形態的属性による検討」
 - ・本田浩二郎（福岡市博物館）「漢委奴國王」金印—鈕孔に関する視点」
 - ・コメント：鈴木勉（NPO工芸文化研究所理事長）・三浦佑之（立正大学文学部）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

・ 討議

*81 : (3) 2017年1月13日(金)・1月14日(土) 10:00~17:00, 国際学術研究会『交響する古代Ⅶ—全体テーマ: 古代文化資源の国際化とその意義 vol.2—』, (共催: 明治大学大学院文学研究科・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・明治大学国際日本古代学研究クラスター・明治大学日本古代学教育研究センター, 後援: 明治大学国際連携本部), 明治大学 グローバルフロント 1F 多目的室

□院生発表

- ・ 関恭平 (明治大学大学院) 『源氏物語』蜻蛉卷薫独詠歌について—「萩の葉に露ふきむすぶ秋風」を起点として—
- ・ ジリアン・バーント (USA・USC) 「大学寮と勸学院: 平安時代の教育を中心に」
- ・ 桜田眞理絵 (明治大学大学院) 「女帝「不婚」と「未婚」のあいだ」
- ・ 坂口彩夏 (明治大学大学院) 「皇位継承の変化と臨朝称制—持統天皇の即位・讓位前史—」

□報告

- ・ 及川 穰 (島根大学法文学部准教授)・佐々木憲一 (明治大学文学部教授) 「資料学的アプローチによる北米の在外考古資料の資源化: 近代化過程の分析と超克」
- ・ 牧野淳司 (明治大学文学部教授) 「源氏物語表白の文化史的研究」
- ・ カール・フライデー (埼玉大学人文社会科学部教授) 「武士研究の研究史のなかでの日本と外国の相互作用」
- ・ 鄭雨峰 (大韓民国・高麗大学校教授) 「箴言集『呻吟語』の東アジアの伝播と受容について」
- ・ 中村成里 (明治大学商学部専任講師) 『『栄花物語』巻二五の検討—後伏見天皇筆栄花物語切を端緒として—』
- ・ 植田 麦 (明治大学政治経済学部専任講師) 『『古事記』における名と称の表現—大物主神を中心に—』
- ・ 小口雅史 (法政大学文学部教授) 「在欧敦煌吐魯番文書の調査成果とその文化資源化」
- ・ 久米雅雄 (大阪芸術大学客員教授・寧楽美術館評議員) 「アジア印章史の研究と方法論と印章文化資源の国際化—寧楽美術館所蔵古璽印等の印学的研究と海外での公表と刊行—」
- ・ ジャネット・グッドウィン (USC 東アジア研究センター) 「近代以前日本史研究における共同研究と協力関係」
- ・ 鈴木卓治 (国立歴史民俗博物館) 「正倉院文書歴博複製資料の自在閲覧システムの開発とその展開」
- ・ 加藤友康 (明治大学大学院文学研究科特任教授) 「日本古代における文書整理の営為」
- ・ 吉村武彦 (明治大学名誉教授) 「大宝令の復元と『令集解』『日本書紀』データベース—大宝田令の復元を通じて—」
- ・ 石川日出志 (明治大学文学部教授) 「二つの金印—「漢委奴國王」と「親魏倭王」—」

【2017年度】

*82 : (1) 2017年7月30日(日) 13:00~17:30, 『韓国愛情伝奇小説の世界—翻訳紹介の意義と研究の展望—』, (主催: 明治大学日本古代学研究所), 於: グローバルフロント2階 4021 教室

- ・ 日向一雅 (明治大学名誉教授) 「開会の辞: 日本で韓国漢文小説を読むことについて」
- ・ 金孝珍 (明治大学兼任講師) 『『周生伝』に見える西湖世界』
- ・ 朴知恵 (明治大学大学院博士後期課程) 『『崔陟伝』の紹介と研究の展望—日韓の文学作品における戦争・仏教・女—』
- ・ 野崎充彦 (大阪市立大学教授) 「倭乱文学としての<崔陟伝>の位相」
- ・ 太田陽介 (攻玉社就学高等学校教諭) 『『王郎返魂伝』の諸問題—研究の展望—』
- ・ 李興淑 (明治大学兼任講師) 『『英英伝』の主人公の滑稽・色好み・知性をめぐって—日韓比較文学の観点から—』
- ・ 千葉仁美 (明治大学大学院博士後期課程) 「『憑虚子訪花録』のとその性格」
- ・ 講演: 鄭雨峰 (大韓民国・高麗大学校教授) 「一七世紀小説史と日記の関係」
- ・ 講演: 小峯和明 (立命館大学名誉教授) 「崔致遠の物語」
- ・ 全体討論, コメンテーター: 染谷智幸 (茨城キリスト教大学教授)

(『古代学研究所紀要』第26号, 2018年6月8日)

- ・ 牧野淳司 「韓国愛情伝奇小説の世界—翻訳紹介の意義と研究の展望—」, 3-4 ページ
- ・ 野崎充彦 「倭乱文学の位相—「崔陟伝」はどこに位置するか—」, 5-22 ページ

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- ・金孝珍 『『周生伝』に見える西湖世界』, 23 - 34 ページ
- ・朴知恵 『『崔陟伝』 紹介—韓国における先行研究を踏まえて—』, 35 - 56 ページ
- ・鄭雨峰 「17 世紀朝鮮における日記文学と小説の関係」, 57 - 66 ページ
- ・李興淑 『『英英伝』における主人公の滑稽と色好みについて』, 67 - 73 ページ
- ・千葉仁美 「『憑虚子訪花録』の紹介—男女主人公の可変・不可変—」, 75 - 80 ページ
- ・太田陽介 『『王郎返魂伝』の諸問題—研究の展望—』, 81 - 91 ページ
- ・小峯和明 「崔致遠の物語」, 93 - 99 ページ
- ・染谷智幸 「両界曼荼羅としての『九雲夢』・『謝氏南征記』—南宗王の換局政治と、それに対する敵・愛の二法—」, 101 - 110 ページ

*83 : (2) 2017 年 9 月 30 日(土)13:00~17:30, 井上光貞生誕 100 周年記念シンポジウム『日本の律令と令集解研究』, (主催: 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本古代学研究所の世界的拠点形成」・日本古代学研究所), 於: グローバルホール

- ・吉村武彦 (明治大学名誉教授) 「井上光貞の令集解研究」
- ・武井紀子 (弘前大学) 「律令制研究と井上光貞」
- ・黄 正建 (中華人民共和国・中国社会科学院) 「天聖令と令集解研究」
- ・大津 透 (東京大学) 「令集解研究の現代的意義」

*84 : (3) 2017 年 11 月 11 日(土)13:00~17:00, 公開シンポジウム『戦後日本考古学と杉原荘介』, (主催: 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本古代学研究所の世界的拠点形成」・日本古代学研究所), 於: リバティータワー1123 教室

- ・挨拶・開催趣旨: 石川日出志 (明治大学日本古代学研究所長/文学部教授)
- ・小田富士雄 (福岡大学名誉教授) 「杉原弥生学と九州」
- ・安蒜政雄 (明治大学名誉教授) 「岩宿遺跡の調査と先土器時代研究」
- ・石川日出志 (明治大学) 「日本考古学界の組織化と共同研究」
- ・コメント: 大塚初重 (明治大学名誉教授)

*85 : (4) 2017 年 11 月 30 日 (木) ~12 月 1 日 (金) 11:00~17:30, 国際学術研究会『交響する古代Ⅷ 全体テーマ《古代文化資源の国際化とその意義 vol. 3》』, (共催: 明治大学大学院文学研究科・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・明治大学国際日本古代学研究所・明治大学日本古代学教育研究センター, 後援: 明治大学国際連携本部), 於: 11 月 30 日: アカデミーコモン A5・6 会議室, 12 月 1 日: 明治大学 グローバルフロント 1F 多目的室

【院生発表】

- ・里館翔大 (明治大学大学院文学研究科博士後期課程) 「筑前国嶋郡戸籍の造籍方針—嶋評戸口変動記録木簡に触れて—」
- ・関 恭平 (明治大学大学院文学研究科博士後期課程) 「源氏物語末摘花巻における「葎の門」の話型と自然表現」
- ・橋本 剛 (早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程) 「格からみた律令国家の帰化政策」
- ・山口直美 (明治大学大学院文学研究科博士後期課程) 「文学からみたタケウチノスクネ研究」

【研究報告】

- ・申敬澈 (大韓民国・釜山大学名誉教授) 「加耶の情勢変動と倭」
- ・ヨハネス・ヴィルヘルム (慶應大学総合政策学部准教授) 「岡正雄とウィーン大学における日本研究の発祥と流れ」
- ・石川日出志 (明治大学文学部教授) 「杉原荘介と中韓考古学交流」
- ・佐々木憲一 (明治大学文学部教授) 「杉原荘介の北アメリカ研究者との交流」
- ・井川史子 (Canada McGill University 名誉教授) 「コメント: 杉原先生・岡先生と海外交流」
- ・湯浅幸代 (明治大学文学部准教授) 「江戸中期における『源氏物語』注釈書・土肥経平『花鳥芳囀』について」
- ・牧野淳司 (明治大学文学部教授) 「源氏物語注釈の諸相」
- ・志村佳名子 (明治大学研究・知財戦略機構研究推進員) 「明治大学中央図書館所蔵『除秘鈔』『除秘鈔附』の「発見」とその意義」
- ・矢越葉子 (明治大学研究・知財戦略機構研究推進員) 「日中古代史料群のデータベースとその活用」
- ・加藤友康 (明治大学大学院文学研究科特任教授) 「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (新大型研究) における統合型検索システムの開発と文化資源化」

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- *86: (5) 2018年3月11日(日)13:00~17:30, 研究集会『文芸テキストから探る古代社会の“こころ”—時代とジャンルを越えて—』, (主催: 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本古代学研究所の世界的拠点形成」・明治大学日本古代学研究所), 於: グローバルホール
- ・基調講演: 上野 誠 (奈良大学文学部教授)「歌と生活の古代学—そうじをめぐる—」
 - ・山崎健司 (明治大学文学部教授)「萬葉の歌ことばと古代人のこころ」
 - ・荒木 浩 (国際日本文化研究センター教授)「夢の表象と心の通い—『源氏物語』からフキダシまでを考える—」
 - ・湯淺幸代 (明治大学文学部准教授)「『源氏物語』にみえる「心の鬼」考」
 - ・牧野淳司 (明治大学文学部教授)「伝説と物語・和歌—「御法」の文学の意義—」
 - ・コメント・全体討論

【2018年度】

- *87: (1) 2019年1月12日(土)・13日(日)各10:00~17:30, 国際学術研究会『交響する古代IX』, 於: グローバルホール
- ・基調講演: 石川日出志 (明治大学)「複眼的日本古代学研究—金印をめぐる実践—」
 - ・吉村武彦 (明治大学名誉教授)「歌木簡と旧辞論の再構築」
 - ・ヨーゼフ・クライナー氏 (ドイツ・ボン大学名誉教授/Josef Kreiner)「岡正雄—20世紀における日本の民族学の形成と展開」
 - ・小笠原好彦 (滋賀大学名誉教授)「聖武天皇が造営した紫香楽宮と甲賀宮」
 - ・荒木志伸 (山形大学)「政庁機能の再検討—古代城柵官衙遺跡を中心に—」
 - ・志村佳名子 (信州大学)「古代・中世除目書研究の可能性—三条西家の除目書を中心として—」
 - ・中井真木 (明治大学)「下襲(したがさね)のひろがり—院政期の故実を中心に—」
 - ・山崎健司 (明治大学)「萬葉集仙覚本データベースの概要と可能性」
 - ・ローベルト・ヴィットカンプ (関西大学/Robert Wittkamp)「古事記は翻訳できるか—英・独訳における音仮名表記の扱い—」
 - ・木下綾子 (聖学院大学)「『和漢朗詠集』における菅原道真の詩と本文系統」
 - ・沈慶昊 (大韓民国・高麗大学校)「高麗李朝の碑誌文体について」
 - ・日向一雅 (明治大学名誉教授)「文学論の時代—10世紀の詩論・和歌論・物語論—」
 - ・井上亘 (常葉大学)「日本最初の書物: 聖徳太子『法華義疏』の成立」
 - ・加藤友康 (明治大学大学院)「文化資源の研究資源化と統合型検索システムの開発」

- *88: (2) 2019年2月23日(土)10:00~18:00, 日本古代学研究所シンポジウム『社会変化とユーラシア東西交易—考古学と分析科学からのアプローチ』, (主催/明治大学日本古代学研究所), 於: リバティタワー1011 教室, [中村大介 (編)『社会変化とユーラシア東西交易: 考古学と分析科学からのアプローチ』(明治大学日本古代学研究所国際シンポジウム予稿集), 全60頁]
- ・中村大介 (埼玉大学)「青銅器時代から匈奴時代における遊牧社会の長距離交易」
 - ・ダニエル・シュタイニガー (ドイツ考古学研究所)「ラピスラズリ原産地と流通パターンに関する新視点」
 - ・向井佑介 (京都大学人文社会科学研究所)「胡漢の文化交流と交易」
 - ・田村朋美 (奈良文化財研究所)「ユーラシア東西交易とガラスの道」
 - ・金奎虎 (大韓民国・公州大学校)「科学的分析からみた韓半島のガラス製玉類の交易」
 - ・山本孝文 (日本大学)「ユーラシアの中継長距離交易と朝鮮三国」
 - ・石川日出志 (明治大学)「漢委奴國王」金印からみた東アジア社会」
 - ・総合討論: コメント/朴天秀 (大韓民国・慶北大学校)

【関連事業】

【2014年度】

- (1) 科学研究費補助金 基盤研究(A) 日本墨書土器データベースの構築 公開研究会『中国の文化遺産学—文字資料を中心として—』(於: 明治大学グローバルフロント1階・グローバルホール), 2014年7月25日
- ・賀雲翱 (南京大学歴史学系)「中国の文化遺産学—出土文字資料を中心に—」
 - ・向井佑介 (京都府立大学文学部)「出土文字資料からみた漢魏晋南北朝の工匠」
- (2) 主催: 熊本県・熊本県教育委員会, 共催: 明治大学日本古代学研究所 後援: 明治大学博物館・熊本県文化財保護協会・朝日新聞社『鞠智城東京シンポジウム 律令国家の確立と鞠智城

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

～698年「繕治」の実像を探る～』(於: 明治大学アカデミーホール), 2014年7月27日.

□最新調査報告

- ・矢野裕介(熊本県教育委員会: 歴史公園鞠智城・温故創造館)

□講演

- ・吉村武彦(明治大学文学部教授)「律令国家の成立と鞠智城」
- ・小田和利(九州歴史資料館学芸調査室長)「大宰府防衛体制と鞠智城」
- ・森 公章(東洋大学文学部教授)「鞠智城「繕治」の歴史的背景」

□パネルディスカッション: コーディネーター; 佐藤 信(東京大学大学院人文社会系研究科教授), パネラー; 吉村武彦・小田和利・森 公章・矢野裕介

- (3) 明治大学日本古代学研究所主催『明治大学・熊本県連携 古代史シンポジウム 熊本の古墳文化と鞠智城—菊池川流域の古代文化—』(於: 明治大学グローバルホール), 2014年11月29日

- ・吉村武彦(明治大学日本古代学研究所所長・文学部教授)「開会挨拶・趣旨説明」
- ・木村龍生(熊本県立歴史公園鞠智城温故創生館・主任学芸員)「江田船山古墳」
- ・木崎康弘(熊本県立装飾古墳館・館長)「装飾古墳」
- ・能登原孝道(熊本県立歴史公園鞠智城温故創生館・主任学芸員)「鞠智城」
- ・シンポジウム パネラー: 講演者および矢野裕介(熊本県立歴史公園鞠智城温故創生館・文化財整備交流課長)

- (4) 明治大学日本古代学研究所・世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会主催, 読売新聞社共催, 明治大学社会連携機構後援『世界に伝えたい飛鳥・藤原の魅力』(於: 明治大学リバティホール), 2015年3月14日.

□記念講演

- ・居駒永幸(明治大学経営学部教授)「飛鳥万葉とは何か」
- ・田辺征夫(世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会専門委員会委員)「日本国誕生の地”飛鳥・藤原”—考古学の発掘調査から—」

□トークセッション

- ・パネリスト: 里中満智子氏(マンガ家)・吉村武彦(明治大学文学部教授)・居駒永幸・田辺征夫, コーディネーター: 関口和哉氏(読売新聞大阪本社編集委員)

- (5) 科学研究費助成事業基盤研究(B)「気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究」市民向け報告会『歴史・考古・民俗学から 気仙地域の魅力を語る』(於: 岩手県陸前高田市立横田基幹集落センター), 2015年2月15日.

- ・挨拶・趣旨説明: 石川日出志(研究代表・明治大学文学部教授)
- ・平川南(大学共同利用法人人間文化研究機構常勤理事)「躍動する古代の気仙地域」
- ・七海雅人(東北学院大学文学部教授)「鎌倉・南北朝時代の気仙・本吉地域」
- ・羽柴直人(岩手県立博物館主任専門学芸員)「考古学からみた奥州藤原氏時代の気仙」
- ・石川日出志「縄文・弥生時代の気仙地域—北と南をつなぐ—」
- ・八木光則(陸前高田市文化財調査委員会委員)「陸前高田の石碑」
- ・小谷竜介(東北歴史博物館学芸部副主任研究員)「地域社会の繋がりを考える—神社の祭礼と七夕行事から—」

【2015年度】

- (1) 中国社会科学院国際合作局・日本明治大学『中日交流與中日關係の歴史考察學術研討解(第5届)』(於: 中国社会科学院近代史研究所學術報告庁), 2015年11月2・3日. 「

- ・石川日出志(明治大学文学部)「漢魏晋代四夷印と「漢委奴國王」金印」
- ・朱来穎(中国社会科学院歴史研究所)「時間法と唐の日常生活—『天聖令』中心に—」
- ・李卓(南開大学歴史系)「「正朔を奉ず」と「正朔を易う」—日本の暦法変更から見る日中關係の変化—」
- ・井上和人(明治大学大学院文学研究科)「唐長安城(隋大興城)の設定規格」
- ・韓建華(中国社会科学院考古研究所)「隋唐東都宮城御苑九洲池に関する初歩的研究」
- ・石黒ひさ子(明治大学日本古代学研究所)「墓誌罐と経筒」
- ・龔国強(中国社会科学院考古研究所)「唐長安東西両市遺跡の考古新発見」
- ・吉村武彦(明治大学文学部)「東アジアにおける日本古代国家の形成の諸問題(覚書)」
- ・徐建新(中国社会科学院世界歴史研究所)「最近の東アジア学界における好太王碑初期拓本

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

の調査と研究」

- ・加藤友康（明治大学大学院文学研究科）「平安時代史をどう捉えてきたか—通史叙述にみる平安時代像—」
- ・劉萍（中国社会科学院近代史研究所）「連合国戦争犯罪委員会の設立及び戦後裁判」
- ・伊勢弘志（明治大学文学部）「日中戦争における日本陸軍の鹵獲と略奪」
- ・王健（中国社会科学院近代史研究所）「東アジアの朝貢体制と琉球研究の歴史的意味と現実的価値」

(2) 南カリフォルニア大学 U S C Meiji Research Exchange（於：南カリフォルニア大学），2016年3月17日.

- ・吉村武彦「蘇我氏の盛衰と藤原氏」
- ・佐々木憲一：Archaeological Investigations into Sixth-Century History of the Old Province of Hitachi, Eastern Japan

(3) 高麗大学校・明治大学大学院文学研究科<第8回高麗大学校・明治大学学術交流行事 韓日文学歴史学の諸問題 (IV)>（於：高麗大学校民族文化研究員大会議室B203），2015年9月10日

- ・石川日出志（基調講演）「漢委奴國王」金印と四夷印」.

(4) 第六回明治大学文学研究科・高麗大学校文科大学国際学術會議，（於：明治大学），2015年10月23日

- ・湯淺幸代（研究発表）「源氏物語の皇統について」

(5) 熊本県・熊本県教育委員会・明治大学古代学研究所主催（明治大学博物館・明治大学社会連携機構後援）公開研究会『鞠智城東京シンポジウム』，（於：明治大学アカデミーホール），2015年9月6日.

- ・加藤友康（講演）「平安期における鞠智城—九世紀—〇世紀の対外関係と「菊池城院」「菊池郡城院」—」

(6) 古代武蔵国研究会・日本古代学研究所主催<第3回古代武蔵国シンポジウム>，（於：明治大学グローバルホール），2015年11月15日

- ・吉村武彦「古代武蔵の時空間—東山道武蔵国の成立—」
- ・山路直充「コメント」

(7) 明治大学日本古代学研究所・世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会主催（共催：読売新聞社，後援：明治大学社会連携機構）<世界に伝えたい「飛鳥・藤原」の魅力—考古学・古代史からみた飛鳥・藤原京の時代>，（於：明治大学アカデミーホール），2016年3月16日

- ・井上和人（講演）「7世紀—都が語る日本国家構築の真実」

【2016年度】

(1) 2016年11月3日（木）10：00～17：00，『火の国・熊本の古代を語る』，（主催：明治大学国際日本古代学研究クラスター，共催：熊本県教育委員会，後援：熊本日日新聞社・明治大学交友会熊本県支部・明治大学熊本県父母会，くまもと県民カレッジ特別企画事業「くまもと教育の日」関連イベント），於：熊本県民交流館パレア10階 パレアホール

- ・石川日出志「弥生時代青銅器と熊本」
- ・佐々木憲一「古墳時代の熊本—周縁から見た古墳文化—」
- ・吉村武彦「江田船山古墳出土大刀銘と5世紀の社会—クマソタケル伝承に触れて—」
- ・井上和人「古代山城・鞠智城と都城—激動する東アジア情勢と日本古代国家の構築—」
- ・加藤友康「平安時代の肥後国—撰関時代を中心とした地域社会と中央とのネットワークを受領の活動からみる—」

(2) 2016年11月12日（土）10:00～17:00，公開シンポジウム「『播磨国風土記』研究の現代的意義」，（主催／明治大学日本古代学研究所 共催／兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室，兵庫県立考古博物館），於：グローバルフロント1階多目的室

- ・吉村武彦：趣旨説明
- ・Edwina Palmer（ニュージーランド・前ウェリントンビクトリア大学）「海外の日本文学からみた播磨国風土記の魅力—口承文学—」
- ・坂江 渉（兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室）「歴史学から読み解く播磨国風土記の神話—口頭の祭祀儀礼—」

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- ・古市 晃（神戸大学大学院人文学研究科・教授）『播磨国風土記』からみた倭王権の地域編成
 - ・吉村武彦『播磨国風土記』とクニ・国土
 - ・和田晴吾（兵庫県立考古博物館館長）『播磨国風土記』と考古学
 - ・討論
- (3) 2016年11月19日(土)13:00～17:00, 市川市史講演会『古代下総のまつりごと』, (主催: 市川市, 共催: 明治大学国際日本古代学研究クラスター), 於: メディアパーク市川2階 グリーンスタジオ
- ・白井久美子（千葉県立房総のむら主任上席研究員）「葛飾の古墳と総の豪族」
 - ・吉村武彦（明治大学名誉教授）「市川のいにしえー下総国葛飾郡の成立」
 - ・加藤友康（明治大学大学院文学研究科特任教授）「下総国府をとりまく人々の活動」
 - ・山路直充（市立市川考古博物館学芸員）「下総国分寺と七重塔」
 - ・川尻秋生（早稲田大学文学学術院教授）「下総国府にやって来た源頼政」
- (4) 2017年1月28日(土)13:00～17:30, 鞠智城・東京シンポジウム『鞠智城の終焉と平安社会～古代山城の退場～』(主催: 熊本県・熊本県教育委員会, 共催: 日本古代学研究所, 後援: 明治大学博物館・明治大学社会連携機構・熊本県文化財保護協会), 於: アカデミーホール
- ・西住欣一郎（熊本県教育委員会）「平安時代の鞠智城」
 - ・井上和人（明治大学大学院文学研究科特任教授）「古代山城の真実ー鞠智城はなんのためにつくられたのかー」
 - ・榎本淳一（大正大学文学部教授）「東アジア世界の変貌と山城」
 - ・松川博一（九州歴史資料館学芸員）「平安時代の太宰府と古代山城」
 - ・ディスカッション: コーディネーター: 佐藤信（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
- パネル展同時開催（1月23日～2月3日）「熊本地震と文化財」, 於: アカデミーコモン1F 展示スペース
- (5) 2017年2月11日(土)13:00～17:00, 科研費市民向け報告会「歴史・考古・民俗から気仙地域の魅力を語るⅢ」(主催: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B) 26284100 「気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究」(研究代表: 石川日出志), 後援: 住田町・住田町教育委員会・陸前高田市教育委員会・大船渡市教育委員会), 於: 岩手県住田町農林会館・大ホール
- 挨拶: 平川南（人間文化研究機構理事）
挨拶: 多田欣一（住田町町長）
- ・石川日出志（明治大学文学部教授）「北上山地の洞穴遺跡ー縄文・弥生時代の三陸海岸と北上山地ー」
 - ・八木光則（陸前高田市文化財調査委員）「古代三陸の蝦夷社会」
 - ・室野秀文（盛岡市教育委員会文化財主査）「気仙川流域の中世城館調査報告」
 - ・蝦名裕一（東北大学災害科学国際研究所准教授）「伊達政宗の気仙郡統治」
 - ・川島秀一（東北大学災害科学国際研究所教授）「津波が通った集落の漁業と信仰」
- (6) 2017年3月4日(土)13:00～16:30, 日本遺産飛鳥シンポジウム「東京講演」: 『日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～』(主催: 日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会(樺原市・高取町・明日香村), 共催: 読売新聞社・明治大学社会連携機構), 於: アカデミーホール
- オープニングムービー: 「日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～(推古女帝編)」
- 第一部講演
- ・里中満智子（マンガ家）「母としての斉明天皇」
 - ・吉村武彦（明治大学名誉教授）「斉明女帝のまつりごと」
 - ・明日香村教育委員会文化財課「調査報告」
- 第二部 パネルディスカッション: 「斉明天皇と皇極天皇」
- ・パネリスト: 里中満智子, 吉村武彦, コーディネーター: 関口和哉（読売新聞大阪本社編集委員）
- (7) 2017年3月5日(日)13:00～17:00, 世界遺産登録をめざす東京講演会『世界に伝えたい「飛鳥・藤原」の魅力ー「外〔海外〕からみた「飛鳥・藤原」ー』, (主催: 大学日本古代学研究所, 世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会, 共催: 読売新聞社, 後援: 明治大学社会連携機構, 明治大学博物館), 於: アカデミーホール
- ・基調講演: 木下正史（東京学芸大学名誉教授, 世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会専門）

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

「飛鳥・藤原の都―「日本国」誕生の舞台―

- ・ 忽那敬三（明治大学博物館学芸員）「お雇い外国人技師・ガウランドが見た飛鳥の古墳―大英博物館に残された記録から―
- ・ 佐々木憲一（明治大学文学部教授）「世界の都市史からみた飛鳥」
- ・ トークセッション： コーディネーター：関口和哉（読売新聞大阪本社編集委員）

【2017年度】

(1)・(2) 2017年6月14日(水) 15:20~17:00・2017年6月18日(日)14:00~16:00

『孫慰祖先生特別講義』, (主催: 国際交流基金, 後援: 明治大学国際日本古代学研究クラスター・明治大学アジア資料学研究所), 於: リバティタワー1階 1011 教室 () グローバルフロント 1階 多目的室

- ・ 孫慰祖 (中華人民共和国・上海博物館) 「三十年来の古璽印研究における新認識―曖昧から明晰へマクロからミクロへ, 印の中から印の外へ―
- ・ 孫慰祖 「秦漢南北朝璽印の断代研究」
 (『古代学研究所紀要』第25号: (講演録 2017年6月14日・18日, 石川日出志「孫慰祖先生の講演招聘について」135 - 138 ページ, 孫慰祖「三十年来古璽印研究の新認識」139 - 161 ページ, 孫慰祖「秦漢南北朝璽印の断代 (編年) 研究―封泥の類型分類の断代意義, も併せて―」163 - 182 ページ)

(3) 2018年1月28日(日)13:00~17:30, 鞠智城・東京シンポジウム『鞠智城跡―その歴史的価値を再考する―』, (主催: 熊本県・熊本県教育委員会・日本古代学研究所, 後援: 明治大学博物館・明治大学社会連携機構・熊本県文化財保護協会), 於: アカデミーホール

- ・ 佐藤正知 (文化庁文化財部記念物課主任調査官) 「古代山城の保存と活用」
- ・ 吉村武彦 (明治大学名誉教授) 「列島古代史における鞠智城」
- ・ 館野和己 (奈良女子大学特任教授) 「文化遺産としての鞠智城」
- ・ ディスカッション: コーディネーター: 佐藤信 (東京大学大学院人文社会系研究科教

(4) 2018年2月18日(日)13:00~16:30, 科研費市民向け報告会『歴史・考古学から気仙地域の魅力を語る IV』, (主催/ : 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学的研究」, 共催: 気仙歴史文化研究会, 後援: 大船渡市教育委員会・陸前高田市教育委員会・住田町教育委員会・明治大学日本古代学研究所), 於: 大船渡市市民交流館・カメリアホール

- ・ 高橋憲太郎 (宮古市教育委員会) 「岩手県内の古代貝塚」
- ・ 永田英明 (東北学院大学文学部) 「古代蝦夷と「海の道」」
- ・ 高橋和孝 (奥州市教育委員会) 「閉伊氏について」
- ・ 蝦名裕一 (東北大学災害科学国際研究所) 「「旧気仙郡の古文書調査―3. 11 後の所在調査・保全活動から―」

(5) 2018年3月18日(日)13:00~17:00, 世界遺産登録をめざす東京講演会『世界に伝えたい「飛鳥・藤原」の魅力 「アジアの宮と都 ～周礼を中心に～」』, 於: アカデミーホール

- ・ 基調講演: 木下正史 (東京学芸大学名誉教授, 世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会専門委員長) 「『日本国』誕生の中心舞台を探る―飛鳥の宮都から藤原宮・京へ―」
- ・ 吉村武彦 (明治大学名誉教授) 「飛鳥の時代の国づくり」
- ・ 村元健一 (大阪歴史博物館学芸員) 「中国都城の日本への影響について―『周礼』との関わりを中心に―」
- ・ トークセッション: コーディネーター: 関口和哉 (読売新聞大阪本社編集委員)

(6) 2018年3月21日(水) 9:30~17:15, 明治大学・中国社会科学院学術交流会『古代における日中交流』, (主催: 明治大学大学院・文学部), 於: グローバルホール

- ・ 石川日出志 (明治大学) 「漢委奴國王」金印駝鈕再加工説を評価する」
- ・ 劉 振 来 (中国社会科学院) 「考古新発見からみた魏晋墓制の変化」
- ・ 佐々木憲一 (明治大学) 「古墳時代における文字の受容」
- ・ 銭 国 祥 (中国社会科学院) 「漢魏洛陽城大極殿の考古学的発見」
- ・ 若狭 徹 (明治大学) 「上野三碑と古墳分布からみた古代豪族」
- ・ 朱岩石 (中国社会科学院) 「東アジア地域6世紀仏教遺跡の考古学研究」
- ・ 吉村 武彦 (明治大学) 「大化改新と社会生活の改革―愚俗の改廃―」
- ・ 陳志遠 (中国社会科学院) 「常星之夜落を弁ず―仏暦推算からみる中古仏教詳説―」

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- ・新井 崇之 (明治大学)「日本が注文した中国陶磁に関する研究とその課題」
- ・黄正建 (中国社会科学院)「日本古写本《群書法要》選文浅析一以《尚書》中的法律資料為例一 (節略稿)」。

【2018 年度】

- (1) 2018 年 7 月 26 日(木)16:00~18:00, 公開講演会『中国における日中交渉史上の考古学的新発見!?!』, (主催/明治大学国際日本古代学研究所・日本古代学研究所), 於: グローバルホール
- ・賀雲翱 (中華人民共和国・南京大学歴史学院教授)「中国南通市如東県掘港における古国清寺の考古学的発見と関連問題の検討」
- (2) 2018 年 8 月 26 日(日)13:00~16:35, 明日香村まるごと博物館フォーラム 飛鳥学講演会 テーマ『蘇我氏の古墳』, (主催: (公財) 古都飛鳥保存財団・奈良県明日香村・明治大学日本古代学研究所・読売新聞社, 後援: 近畿日本鉄道 (株)・国営飛鳥歴史公園飛鳥管理センター・(一財) 明日香村地域振興公社), 於: アカデミーホール
- ・高橋幸治 (明日香村教育委員会文化財課主査)「近年の飛鳥における発掘調査成果」
 - ・今尾文昭 (関西大学非常勤講師)「舒明大王 (天皇) の古墳と蘇我氏の葬地」
 - ・吉村武彦 (明治大学名誉教授)「日本の黎明」
 - ・パネル討論: パネリスト: 吉村武彦・今尾文昭・若狭徹 (明治大学准教授), コーディネーター: 関口和哉 (読売新聞大阪本社地方部次長)
- (3) 2018 年 9 月 29 日(土)11:00~17:30, 公開シンポジウム『今, 難波宮から都城を考える』, (主催: 明治大学日本古代学研究所), 於: アカデミーコモン 2 階・A 1・2・3 会議室
- ・吉村武彦 (明治大学名誉教授)「大化改新と難波遷都」
 - ・積山洋 (大阪文化財研究所)「前期難波宮の発掘の成果と課題」
 - ・磐下徹 (大阪市立大学)「7 世紀史のなかの前期難波宮」
 - ・村元健一 (大阪歴史博物館)「中国からみた前期難波宮」
 - ・網 伸也 (近畿大学)「後期難波宮と長岡遷都」
 - ・金在弘 (大韓民国・国民大学校)「日本と朝鮮半島の都城」
 - ・シンポジウム: 司会: 川尻秋生 (早稲田大学文学学術院)
- (4) 2018 年 10 月 14 日(日)10:30~17:10, 鞠智城・古代山城シンポジウム『古代山城の成立と変容』, (主催: 熊本県・熊本県教育委員会・明治大学日本古代学研究所, 後援: 明治大学博物館・明治大学社会連携機構・熊本県文化財保護協会), 於: アカデミーホール
- ・基調講演: 亀田修一 (岡山理科大学教授)「古代山城の成立と変容」
 - ・仁藤敦史 (国立歴史民俗博物館教授)「七世紀後半の国際関係と古代山城」
 - ・赤司善彦 (大野城心のふるさと館館長)「朝鮮式山城の特徴ー主に兵站と備蓄についてー」
 - ・向井一雄 (古代山城研究会代表)「神籠石系山城の捉え方~築城年代・築城主体論の克服」
 - ・パネルディスカッション: コーディネーター: 佐藤信 (人間文化研究機構理事), コメント: 中村友一 (明治大学准教授), 五十嵐基善 (明治大学講師), 熊本県教育委員会職員
- (5) 2019 年 2 月 24 日(日)13:00~16:50, 科研費市民向け報告会『歴史・考古学から本吉・気仙地域の魅力を語る』, (主催: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)「東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学的研究」, 後援: 気仙沼市教育委員会・陸前高田市教育委員会・明治大学日本古代学研究所), 於: 気仙沼市中央公民館
- ・森千可子・鈴木志穂 (気仙沼市教育委員会生涯学習課)「気仙沼市の文化財について」
 - ・石川日出志 (明治大学文学部)「三陸の考古学ー縄文から弥生へー」
 - ・平川南 (大学共同利用研究機関法人人間文化研究機構)「大伴氏と気仙地方 黄金と矢羽根を求めてー甲斐国一宮浅間神社蔵「古屋家家譜」からー」
 - ・蝦名裕一 (東北大学災害科学国際研究所)「日本吉郡に残る災害伝承」
 - ・七海雅人 (東北学院大学文学部)『『更地の向こう側 解散する集落「宿」の記憶地図』の紹介」
- (6) 2019 年 3 月 10 日(日)13:00~17:00, 世界遺産登録をめざす東京講演会『世界に伝えたい「飛鳥・藤原」の魅力ー「古代寺院から読み解く東アジアの国際交流」』, (主催: 明治大学日本古代学研究所・世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会, 共催: 読売新聞社, 後援: 明治大学社会連携機構), 於: アカデミーホール
- ・記念講演 1: 吉村武彦 (明治大学名誉教授)「飛鳥寺・斑鳩寺建立とその時代」
 - ・記念講演 2: 清水昭博 (帝塚山大学文学部教授)「瓦から読み解く朝鮮半島と飛鳥の古代寺院」

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

- ・記念講演3：黄曉芬氏（東亜大学人間科学部教授）「最新の中国考古学からみた飛鳥」
- ・トークセッション：コーディネーター：関口和哉氏（読売新聞大阪本社地方部次長）

＜これから実施する予定のもの＞

【日本古代学研究の世界的拠点形成】

明治大学所蔵研究資料群の文化資源化，明治大学所蔵研究資料群に関する研究実践，海外の研究組織・研究者との研究交流の恒常化，の3点に重点を置いた研究活動を継続して＜日本古代学研究の世界的拠点＞の拡充に努める。

【文化資源化事業の継続】

岡正雄・井上光貞・杉原荘介関係資料，および「花鳥芳囀」等の古典籍データの文化資源化について，古代学検索データベースシステムによって，検索項目を指定した画像とテキストデータ検索の一般公開の準備が完了した。しかし，その補訂・維持・管理については，2019年度は十分な体制が取れないが，国際日本古代学研究クラスターとして継続して検討を重ねる。

【研究成果の公開】

- ・岡正雄が1932年にウィーン大学に提出した学位論文“Kulturschichten in Alt-Japan”（古日本の文化層）の翻訳は完了したので，脚注等の作業を行って，2020年度に言叢社から刊行する予定である。800ページ余りになる予定。
- ・明治大学図書館所蔵『除秘鈔』の影印・翻刻・解題の出版。2020年12月，八木書店より刊行予定。頁数未定。
- ・韓国漢文小説の書き下し文・注釈・現代語訳・解説の出版。2019年度，白帝社から刊行予定。

【外部評価を活かせる仕組みづくり】

- ・本研究事業は2018年度をもって終了するが，そこで形成した＜日本古代学研究の世界的拠点＞は国際日本古代学研究クラスターとして継続・拡充を図る予定であり，各種研究会開催の際に外部からの評価・助言を受ける仕組みづくり（参加者による評価等アンケート）を2019年度から行う。

14 その他の研究成果等

なし

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

- ・「社会的な実用性を意識し、社会への還元、情報発信に注力していただきたい。」

<「選定時」に付された留意事項への対応>

研究成果の社会還元・発信は、とくに人文系の研究では重要であると認識している。そのために、単に研究プロジェクト参加者が研究活動を積み重ねるだけでなく、研究者のみならず一般社会に、逐次研究成果を公表し、公開で議論することに努めた。そのため本事業として国際学術会議・公開講演会・シンポジウムを毎年2～5回・計16回、関連事業を毎年5～7回・計31回開催した。これらの研究成果の公開＝社会還元事業は、HPおよびポスター・チラシ配布、ダイレクトメール等によって事前に周知を図った。関連事業として、熊本県・奈良県・明日香村・兵庫県など全国の自治体や科研費研究との連携を重視し、敢えてここに記載するのは、これこそが歴史系の研究成果を現代社会・地域社会に還元するもっとも有効であると認識するからである。したがって、こうした公開事業の多くは報道各社に事前に情報提供して取材を促し、一定程度新聞等で報道された。これは、研究成果の核心を、研究論文や図書よりもはるかに広範に社会還元するひとつの手段として有効であると認識している。

また、<日本古代学研究>が研究主題であるために、欧米の研究者を毎年招聘しても日本語での研究報告が多くなるという特色がある。しかし、研究成果の海外発信という面ではそれが弱点になるという認識もある。そのため、日本古代学研究の国際化の一環として欧米で、英語によるワークショップの開催に努力し、岡正雄研究ではすべて英語による国際シンポジウム『Origins of Oka Masao's Anthropological Scholarship』を開催し、英文による報告書を刊行し、Antropos誌でレビューに取り上げられた。

さらに、私たち日本古代学研究所のホームページ上に、出土文字資料等のデータベースを掲載してきたが、本事業の取り組みによって構築した各種日本古代学研究データベースを公開して、地球上のどこからでも基本情報にアクセスできる環境を整えた。

http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_outcome.html

とりわけ、「全国墨書・国書土器、文字瓦、横断検索データベース」は、全国の自治体の埋蔵文化財調査研究機関において、出土した墨書土器・文字瓦を積読する際のツールとして活用されている。

また、心性研究の成果については社会的な実用性という面からは評価が難しいが、基礎データの提供という点では、社会への還元と情報発信は十分行えた。「萬葉集仙覚本データベース」は萬葉集に関心を持つ者に有用な情報であり、『源氏物語聞録』ほかの古典籍データベースは、古典籍に関心を持つ者の関心を集めている。研究成果を含んだ著書『源氏物語の史的意識と方法』は、物語研究の場として明治大学が重要な役割を担うことを示している。「宮古島の神と森を考える会」では地元の民俗研究者と協力して、宮古島市の祭祀と神歌を復活させる活動を行ってきた。毎年シンポジウムを開催し、近年は参加者が次第に増え、60名を超えるようになった。神歌研究は研究者だけのものではなく、本来地域の人々の生活の中にあるものである。そのような神歌の役割を地元の人々に伝えていく活動は、社会的に多大な意義を持つ。この他、第68回明治大学中央図書館ギャラリー展示（2017年5月18日～28日）では『除秘抄』研究の成果を展示し、2018年10月から2019年秋にかけては、学外の研究者と連携しつつ、国文学研究資料館特別展示「祈りと救いの中世」、神奈川県立金沢文庫特別展「顕われた神々—中世の霊場と唱導—」で宗教テキストをめぐる心性研究の成果の一部を社会に発信した。

法人番号	131092
プロジェクト番号	S1411022

<「中間評価時」に付された留意事項>

なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

なし

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 26 年度	施設	0						科研費:4件 16,300千円
	装置	0						
	設備	7,668	3,470	4,198				エネルギー分散型蛍光X 線分析装置一式
	研究費	18,579	14,401	4,178				
平成 27 年度	施設	0						科研費:4件 12,200千円
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	22,207	13,950	8,257				
平成 28 年度	施設	0						科研費:4件 17,400千円
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	25,146	14,491	10,655				
平成 29 年度	施設	0						科研費:2件 7,700千円
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	22,070	14,664	7,406				
平成 30 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	23,222	17,157	6,065				
総 額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	7,668	3,470	4,198	0	0	0	0
	研究費	111,224	74,663	36,561	0	0	0	0
総 計	118,892	78,133	40,759	0	0	0	0	

プロジェクト番号

S1411022

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
日本古代学研究所(グローバルフロント408B)	2012	50m ²	1	28			
日本古代学研究所(グローバルフロント408C)	2012	50m ²	1	28			
日本古代学研究所(グローバルフロント408D)	2012	25m ²	1	28			
日本古代学研究所(グローバルフロント408K)	2012	25m ²	1	28			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h h h h h			
(研究設備) エネルギー分散型蛍光X線分析装置一式	2014	OURSTEX100FA型	1	1088 h h h h h	6,805	4,198	私学助成
(情報処理関係設備)				h h h h h			

プロジェクト番号

S1411022

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,315	消耗品	1,315
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	23	郵便費・宅配便	23
印 刷 製 本 費	239	資料複写	239
旅 費 交 通 費	2,237	国内出張	2,237
報 酬 ・ 委 託 料	4,412	謝金・業務委託	4,412
(会合費)	103	会議費	103
計	8,329		8,329
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	747	アルバイト	747
教育研究経費支出	0		0
計	747		747
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	3,877	研究機器	3,877
図 書	1,635	研究図書	1,635
計	5,512		5,512
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	2,259	リサーチ・アシスタント	2,259
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	1,731	研究支援者	1,731
計	3,990		3,990
年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,026	消耗品	1,026
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	71	郵便費・宅急便	71
印 刷 製 本 費	658	資料複写	658
旅 費 交 通 費	3,955	国内出張	3,955
報 酬 ・ 委 託 料	5,615	謝金・業務委託	5,615
(賃借料)	102	賃借料	102
(会合費)	126	会議費	126
(修繕費)	221	修繕費	221
計	11,774		11,774
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,779	アルバイト	3,779
教育研究経費支出	0		0
計	3,779		3,779
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,188	研究機器	1,188
図 書	543	研究図書	543
計	1,731		1,731
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	3,170	リサーチ・アシスタント	3,170
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	1,753	研究支援者・研究推進員	1,753
計	4,923		4,923

		プロジェクト番号		S1411022	
年 度	平成 28 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	471	消耗品	471	書籍、PC関連消耗品	
光 熱 水 費	0		0		
通 信 運 搬 費	145	郵便費・宅急便	145	資料郵送・機材運搬	
印 刷 製 本 費	972	資料複写	972	資料複写代	
旅 費 交 通 費	2,043	国内出張	2,043	国内調査	
報 酬 ・ 委 託 料	8,563	謝金、業務委託	8,563	調査業務委託、研究協力謝礼	
(会合費)	65	会議費	65	研究会議打ち合わせ弁当代・お茶代	
(修繕費)	113	修繕費	113	ポータブル蛍光X線分析装置修繕	
計	12,372		12,372		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	4,742	アルバイト	4,742	時給950円、年間時間数27時間、実人数1人 時給1200円、年間時間数2475時間、実人数12人 時給1250円、年間時間数323時間、実人数1人 時給1300円、年間時間数892時間、実人数1人	
教育研究経費支出	0		0		
計	4,742		4,742		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	0		0		
図 書	4,349	研究図書	4,349	和書	
計	4,349		4,349		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	3,277	リサーチ・アシスタント	3,277	学内3名	
ポスト・ドクター	0		0		
研究支援推進経費	406	研究支援者	406	学外1名	
計	3,683		3,683		
年 度	平成 29 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	241	消耗品	241	書籍、PC関連消耗品	
光 熱 水 費	0		0		
通 信 運 搬 費	116	郵便費・運搬費	116	資料郵送・機材運搬	
印 刷 製 本 費	260	資料印刷	260	資料コピー、製本代	
旅 費 交 通 費	3,095	国内・海外出張	3,095	調査旅費、招聘旅費	
報 酬 ・ 委 託 料	7,632	謝金、業務委託	7,632	資料デジタル化業務委託、講演謝礼	
(会合費)	68	会議費	68	研究会議打ち合わせ弁当代・飲み物代	
(修繕費)	0	修繕費	0		
計	11,412		11,412		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	3,575	アルバイト	3,575	時給1200円、年間時間数606.5時間、実人数2人 時給1300円、年間時間数2071.5時間、実人数10人	
教育研究経費支出	0		0		
計	3,575		3,575		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	0		0		
図 書	72	研究図書	72	和書	
計	72		72		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	3,245	リサーチ・アシスタント	3,245	学内3名	
ポスト・ドクター	0		0		
研究支援推進経費	3,765	研究推進員・研究支援者	3,765	学内2名	
計	7,010		7,010		

年度		平成 30 年度		プロジェクト番号	S1411022
小科目	支出額	積算内訳			
		主な使途	金額	主な内容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消耗品費	431	消耗品	431	PC関連消耗品	
光熱水費	0		0		
通信運搬費	53	郵便費・運搬費	53	資料郵送・機材運搬	
印刷製本費	923	資料複写	923	資料コピー、製本代	
旅費交通費	3,189	国内・海外出張	3,189	調査旅費、招聘旅費	
報酬・委託料	4,844	謝金、業務委託	4,844	資料デジタル化業務委託、講演謝礼	
(会合費)	119	会議費	119	研究会議打ち合わせ弁当代・飲み物代	
(修繕費)	183	修繕費	183	電子顕微鏡点検修理代	
計	9,742		9,742		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	2,721	アルバイト	2,721	時給1200円、年間時間数885時間、実人数4人 時給1300円、年間時間数1171.5時間、実人数4人	
教育研究経費支出	0		0		
計	2,721		2,721		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	0		0		
図 書	0		0		
計	0		0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	4,356	リサーチ・アシスタント	4,356	学内4名	
ポスト・ドクター	1,610	ポスト・ドクター	1,610	学内1名	
研究支援推進経費	4,793	研究推進員・研究支援者	4,793	学内2名	
計	10,759		10,759		